

「地理」 指導の手引き

2011年 第1回試験

「地理」 指導の手引き

2011年 第1回試験

ディプロマプログラム (DP)

「地理」指導の手引き

2009年2月に発行の英文原本 *Geography guide* の日本語版
2015年12月発行

本資料の翻訳・刊行にあたり、
文部科学省より多大なご支援をいただいたことに感謝いたします。

注： 本資料に記載されている内容は、英文原本の発行時の情報に基づいています。ただし、ディプロマプログラムの概要を説明している「ディプロマプログラムとは」のセクションに限り、日本語版刊行時現在の新たな情報が反映されています。アップデートされた用語がある場合には、ワークショップなどでは最新の用語にそれぞれ読み替えてご利用ください。

非営利教育財団 国際バカロレア機構
(International Baccalaureate Organization)
15 Route des Morillons, 1218 Le Grand-Saconnex, Geneva, Switzerland

発行所
International Baccalaureate Organization (UK) Ltd
Peterson House, Malthouse Avenue, Cardiff Gate
Cardiff, Wales CF23 8GL, United Kingdom

ウェブサイト : www.ibo.org

© International Baccalaureate Organization 2015

国際バカロレア機構（以下、「IB」という。）は、より良い、より平和な世界の実現を目指して、チャレンジに満ちた4つの質の高い教育プログラムを世界中の学校に提供しています。本資料は、そうしたプログラムを支援することを目的に作成されました。

IBは、資料の中で利用する多様な情報源について、情報の正確さと信憑性を確認します。ウィキペディアのようなコミュニティーベースの知識源を使用する際には、特に留意します。IBは知的財産の原則を尊重し、利用する著作物すべてについて刊行前に著作権者を特定し、許諾を得るよう常に努力します。IBは、本資料で利用した著作物に対して許諾をいただいたことに感謝するとともに、誤記および遺漏がありました場合には、可能な限り早急に訂正いたします。

本資料に関するすべての権利はIBに帰属します。法令またはIB内部規則もしくは方針に明記されていない限り、IBの事前承諾書なしに、本書のいかなる部分も、形式と手段を問わず、複製、検索システムへの保存、送信を禁じます。詳しくは www.ibo.org/copyright をご覧ください。

IBの商品と刊行物は、IBストア (<http://store.ibo.org>) でお求めください。ご注文については、販売・マーケティング部にお問い合わせください。

電子メール : sales@ibo.org

International Baccalaureate、Baccalauréat International および Bachillerato Internacional は、
International Baccalaureate Organization の登録商標です。

IBの使命

IB mission statement

国際バカロレア（IB）は、多様な文化の理解と尊重の精神を通じて、より良い、より平和な世界を築くことに貢献する、探究心、知識、思いやりに富んだ若者の育成を目的としています。

この目的のため、IBは、学校や政府、国際機関と協力しながら、チャレンジに満ちた国際教育プログラムと厳格な評価の仕組みの開発に取り組んでいます。

IBのプログラムは、世界各地で学ぶ児童生徒に、人がもつ違いを違いとして理解し、自分と異なる考えの人々にもそれぞれの正しさがあり得ると認めることのできる人として、積極的に、そして共感する心をもって生涯にわたって学び続けるよう働きかけています。



IBの学習者像

すべてのIBプログラムは、国際的な視野をもつ人間の育成を目指しています。人類に共通する人間らしさと地球を共に守る責任を認識し、より良い、より平和な世界を築くことに貢献する人間を育てます。

IBの学習者として、私たちは次の目標に向かって努力します。

探究する人

私たちは、好奇心を育み、探究し研究するスキルを身につけます。ひとりで学んだり、他の人々と共に学んだりします。熱意をもって学び、学ぶ喜びを生涯を通じてもち続けます。

知識のある人

私たちは、概念的な理解を深めて活用し、幅広い分野の知識を探究します。地域社会やグローバル社会における重要な課題や考えに取り組みます。

考える人

私たちは、複雑な問題を分析し、責任ある行動をとるために、批判的かつ創造的に考えるスキルを活用します。率先して理性的で倫理的な判断を下します。

コミュニケーションができる人

私たちは、複数の言語やさまざまな方法を用いて、自信をもって創造的に自分自身を表現します。他の人々や他の集団のものの見方に注意深く耳を傾け、効果的に協力し合います。

信念をもつ人

私たちは、誠実かつ正直に、公正な考えと強い正義感をもって行動します。そして、あらゆる人々がもつ尊厳と権利を尊重して行動します。私たちは、自分自身の行動とそれに伴う結果に責任をもちます。

心を開く人

私たちは、自己の文化と個人的な経験の真価を正しく受け止めると同時に、他の人々の価値観や伝統の真価もまた正しく受け止めます。多様な視点を求め、価値を見だし、その経験を糧に成長しようと努めます。

思いやりのある人

私たちは、思いやりと共感、そして尊重の精神を示します。人の役に立ち、他の人々の生活や私たちを取り巻く世界を良くするために行動します。

挑戦する人

私たちは、不確実な事態に対し、熟慮と決断力をもって向き合います。ひとりで、または協力して新しい考えや方法を探究します。挑戦と変化と機知に富んだ方法で快活に取り組みます。

バランスのとれた人

私たちは、自分自身や他の人々の幸福にとって、私たちの生を構成する知性、身体、心のバランスをとることが大切だと理解しています。また、私たちが他の人々や、私たちが住むこの世界と相互に依存していることを認識しています。

振り返りができる人

私たちは、世界について、そして自分の考えや経験について、深く考察します。自分自身の学びと成長を促すため、自分の長所と短所を理解するよう努めます。

この「IBの学習者像」は、IBワールドスクール（IB認定校）が価値を置く人間性を10の人物像として表しています。こうした人物像は、個人や集団が地域社会や国、そしてグローバルなコミュニティの責任ある一員となることに資すると私たちは信じています。

目次

はじめに	1
本資料の目的	1
ディプロマプログラムとは	2
「地理」の学習	5
ねらい	8
評価目標（Assessment Objective：AOと表記）	9
評価目標の実施	10
シラバス	12
シラバスの概要	12
地理教育へのアプローチ	13
パート1：コア	20
パート2：オプション・テーマ	24
パート3：HL発展項目	43
評価	50
ディプロマプログラムにおける評価	50
評価の概要—標準レベル（SL）	52
評価の概要—上級レベル（HL）	53
外部評価	54
内部評価	63
付録	77
指示用語の解説	77

本資料の目的

本資料は、「地理」を学校で計画、指導、評価するための手引きです。「地理」の担当教師を対象としていますが、生徒や保護者に「地理」について説明する際にも、ご活用ください。

本資料は、オンラインカリキュラムセンター（OCC）の教科のページで入手できます。OCC（<http://occ.ibo.org>）は、パスワードで保護されたIBのウェブサイトで、IBの教師をサポートする情報源です。また、本資料はIBストア（<http://store.ibo.org>）で購入することもできます。

その他のリソース

教師用参考資料や科目レポート、内部評価のガイダンス、評価規準の説明といったその他のリソースも、OCCで取り扱っています。過去の試験問題とマークスキームはIBストアで取り扱っています。

OCCでは、他の教師が作成したり、活用している教育リソースについて情報を得ることができますので、ご活用ください。教師たちによりウェブサイトや本、ビデオ、定期刊行物、指導案などの役立つリソースも提供されています。

2011年 第1回試験

ディプロマプログラムとは

ディプロマプログラム（DP）は16歳から19歳までの大学入学前の生徒を対象とした、綿密に組み立てられた教育プログラムです。幅広い分野を学習する2年間のプログラムで、知識豊かで探究心に富み、思いやりと共感する力のある人間を育成することを目的としています。また、多様な文化の理解と開かれた心の育成に力を入れており、さまざまな視点を尊重し、評価するために必要な態度を育むことを目指しています。

DPのプログラムモデル

DPは、6つの^{グループ}教科が中心となる核（「コア」）を取り囲んだ形のモデル図で示すことができます（図1参照）。DPでは、幅広い学習分野を同時並行して学ぶのが特徴で、生徒は「言語と文学」（グループ1）と「言語の習得」（グループ2）で現代言語を計2言語（または現代言語と古典言語を1言語ずつ）、「個人と社会」（グループ3）から人文または社会科学を1科目、「理科」（グループ4）から1科目、「数学」（グループ5）から1科目、そして「芸術」（グループ6）から1科目を履修します。多岐にわたる分野を学習するため、学習量が多く、大学入学に向けて効果的に準備できるようになっています。生徒は各教科から柔軟に科目を選択できるため、特に興味のある科目や、大学で専攻したいと考えている分野の科目を選ぶことができます。



図1

DPのプログラムモデル

科目の選択

生徒は、6つの教科からそれぞれ1科目を選択します。ただし、「芸術」から1科目選ぶ代わりに、他の教科で2科目選択することもできます。通常3科目（最大4科目）を上級レベル（HL）、その他を標準レベル（SL）で履修します。IBでは、HL科目の学習に240時間、SL科目の学習に150時間を割りあてることを推奨しています。HL科目はSL科目よりも幅広い内容を深く学習します。

いずれのレベルにおいても、さまざまなスキルを身につけますが、特に批判的^{クリティカル}な思考と分析に重点を置いています。各科目の修了時に、学校外で実施されるIBによる外部評価で生徒の学力を評価します。また、多くの科目で、科目を担当する教師が評価する課題（コースワーク）を課しています。

プログラムモデルの「コア」

DPで学ぶすべての生徒は、プログラムモデルの「コア」を形づくる次の3つの必修要件を履修します。「知の理論」（TOK：theory of knowledge）では、批判的^{クリティカルシンキング}な思考に取り組みます。具体的な知識について学習するのではなく、知るプロセスを探究するコースです。「知識の本質」について考え、私たちが「知っている」と主張することを、いったいどのようにして知ることかを考察します。具体的には、「知識に関する主張」を分析し、知識の構築に関する問いを探究するよう生徒に働きかけていきます。TOKの目的は、共有された「知識の領域」の間のつながりを重視し、それを「個人的な知識」に結びつけることで、生徒が自分なりのものの見方や、他人との違いを自覚できるよう促していくことにあります。

「創造性・活動・奉仕」（CAS：creativity, activity, service）は、DPの中核です。「IBの使命」や「IBの学習者像」の倫理原則に沿って、生徒が自分自身のアイデンティティーを構築するのを後押しします。CASでは、DPの期間を通じて、アカデミックな学習と同時並行して多岐にわたる活動を行います。CASは、創造的思考を伴う芸術などの活動に取り組む「創造性」（creativity）、健康的なライフスタイルの実践を促す身体的活動としての「活動」（activity）、学習に有益であり、かつ無報酬で自発的な交流活動を行う「奉仕」（service）の3つの要素で構成されています。CASは、DPを構成する他のどの要素よりも、「多様な文化の理解と尊重の精神を通じて、より良い、より平和な世界を築く」という「IBの使命」に貢献しているといえるかもしれません。

「課題論文」（EE：extended essay）では、生徒は、関心のあるトピックの個人研究に取り組み、研究成果を4000語（日本語の場合は8000字）の論文にまとめます。EEには、世界を対象に学際的な研究を行う「ワールドスタディーズ」として執筆されるものも含まれます。生徒は、履修しているDP科目から1科目（「ワールドスタディーズ」の場合は2科目）を選び、対象とする研究分野を定めます。また、EEを通じて大学で必要とされるリサーチスキルや記述力を身につけます。研究は、正式な書式で構成された論文にまとめ、選択した科目にふさわしい論理的で一貫した形式で、アイデアや研究結果を伝えます。高

いレベルの研究スキル、記述力、創造性を育成し、知的発見を促すことを目的としており、担当教員の指導のもと、生徒が、自分自身で選択したトピックに関する研究に自立的に取り組む機会となっています。

「IBの使命」と「IBの学習者像」

DPでは、「IBの使命」と「IBの学習者像」に示された目的の達成に向かって、生徒たちが必要な知識やスキル、態度を身につけられるよう働きかけます。DPにおける「指導」と「学習」は、IBの教育理念を日々の実践において具現化したものです。

「地理」の学習

地理は、現実の世界に深く根ざしており、時間と空間の両方に存在する「個人」、「社会」、および「自然環境」との間に起こる相互影響に焦点を置く、ダイナミックな学問分野です。そして、その関係に見られる「傾向」と「パターン」を特定し、その背後にある過程について考察します。また、人々がその変化にどのように適応して対応するのかを調査し、その変化に対する対応や対策を評価する学問分野でもあります。地理は、「空間」と「場所」の間の類似点や相違点を説明することにも役立ちます。それらの類似点や相違点は、様々なスケールや観点から明確にすることができます。

「グループ3」に属する地理は、「社会科学」と「自然科学」の間に位置するという点で特有です。DP地理コースでは、自然地理学および人文地理学の両方を統合しており、生徒が科学的な方法論と社会経済的な方法論の双方を確実に習得できるようになっています。地理の学習はこれらの科目の中間に位置しているということから、関連した概念や考え方を広範な学問分野から考察できるという利点があります。それにより、生徒は物事に対する新しいアプローチ、観点、考え方を理解し、それらを尊重することを学びます。

地理と国際的な側面

地理コースは、いくつかの異なる方法で、グローバルで国際的な認識を具体化しています。貧困、持続可能性、そして、気候変動といった鍵となるグローバルな課題について考察します。また、ローカルからリージョナル、ナショナル、インターナショナルに至る多様な地域スケールの事例と詳細なケーススタディーを取り上げます。生徒たちがどこに住んでいても、DP地理の学習がそのニーズに合った最適な内容であるように、教師は事例とケーススタディーとをコース全体を通して柔軟に選択できるようになっています。このコースのシラバスの特徴は、様々な観点、経済状況、社会的・文化的多様性を考慮していることです。

地理は、生徒の国際的理解を発達させ、グローバルな問題に対する問題意識を育むとともに、ローカルなレベルにおける自身の責任意識を高めることをねらいます。また、ますますお互いのつながりが複雑化するこの世界において、生徒が一市民として自分の責任を認識しながら、それらの問題を解決するために個人として関わろうとする程度にまで達すること、それを促す価値観と態度を培うことも地理の学習の目標です。

標準レベル（SL）と上級レベル（HL）の違い

標準レベル（SL）と上級レベル（HL）の生徒は、両レベル共通の「指定学習項目」と「オプショナル・テーマ」を含んだシラバスに沿って学習を進めます。HLの生徒は、HL発展項目の学習内容も学びます。コースの評価目標（Assessment Objective：AOと表記）に記載されているように、生徒たちは特定のスキル、能力、知識の発達を求められます。

地理の学習を行うスキルと活動は、SLとHLの両方に共通しますが、HLの生徒にはより多くの知識を身に付け、それを批判的に評価し、さらにHL発展項目に含まれた概念を総合化することが求められます。

概要：

- ・ SLの生徒は2つのオプショナル・テーマについて学びます。HLの生徒はさらに幅広く3つのオプショナル・テーマについて学びます。
- ・ HLの生徒は、HL発展項目として「地球規模での相互作用」を学びます。そして、規定された概念を考察、評価、総合します。これらの概念は本来複雑で、議論がぶつかる可能性もあり、また、相互に結びついている内容でもあるため、包括的なアプローチが必要です。それにより、HLでのより深い理解へとつながります。

地理と事前の学習経験

地理コースを履修するにあたり、特定の事前学習経験は必要ありません。また、国内外の学習科目の中で事前に履修が必要なものもありません。「地理」の学習で必要とされるスキルは、コース履修中にその概念を学ぶなかで身に付けていきます。

MYPとの接続

IB中等教育プログラム（MYP）では、「個人と社会」のグループの学問領域の1つとして「地理」の授業が行われることがあります。地理は、MYPの「相互作用のエリア（AOI：areas of interaction）」、概念、人文科学スキルを基盤として、自然なかたちで学習を進めて行くことができる科目です。変化、システム、グローバルな意識、場所と空間といった概念の中で取り扱われる基本的な問題は、生徒がDPで「地理」を学ぶにあたって非常に有用な基礎となり、シラバスが求める結果を導くことを可能にします。DP地理コースは、MYP「個人と社会」で学んだ重要なスキルを拡張し、技術的、分析的スキルや意思決定、調査のスキルを育みます。それと同様に、MYP「個人と社会」で導入されている統計的に学び発表する方略を、DP地理コースではさらに掘り下げて遂行し、そのスキルを洗練させていきます。

「地理」と「知の理論」

グループ3の教科を履修する生徒は、「個人と社会」について学びます。それは時間と場所の中に存在するの「人間」とその「環境」との関わりを探究することです。そのため、これらの科目は「人文科学」または「社会科学」として一般的に呼ばれています。

他の分野と同様に、グループ3の教科の知識を得るには多様な方法があります。たとえば、実証的根拠としての^{エビデンス}証拠の蓄積、データ収集、実験、観察、また、帰納的推論と演繹的推論といったことはすべて、行動パターンを説明し「知識に関する主張」へと結び付ける手かかりとなります。グループ3の科目を履修する生徒は、正当性、信憑性、信頼性、確実性、個人の観点、また、文化的な観点などの知識問題を評価することで、それらの「知識に関する主張」を分析することを要求されます。

それぞれの教科と「知の理論」の関係はディプロマプログラムにとって重要であり基本的なことです。グループ3の教科のコースを通して、生徒は人文科学で用いられている多様な「知るための方法」やメソッドを批判的に振り返ることができるようになります。それにより、生徒は「探究心、知識、思いやりに富んだ若者」になるのです。(IBの使命)

DP地理コースでは、数々の質問課題が「知の理論」と「地理」との関係を浮かび上がらせるでしょう。コース中に考えられる質問の例には以下のようなものがあります。

- ・ 自然科学の知見は、人文科学の知見と同じ程度に信頼性は高いものですか。それぞれの分野における「科学的法則」の意味はなんでしょうか。
- ・ 地図は、どの程度事実を反映しているのでしょうか。
- ・ 地域には境界があるのでしょうか。
- ・ 「地理は人文科学と自然科学のメソッドを結合させる」これはどの程度正しいですか。
- ・ 地理のトピックの中には、気候変動などのように論争的トピックがあります。科学的メソッドにおいてはどのようにそれらのトピックを取り扱っていますか。そのようなトピックは、常に科学的メソッドの範囲で論じられているものなのでしょうか。
- ・ 地球温暖化などの複雑な現象の研究にはどのような科学的または社会的要因が影響するのでしょうか。
- ・ 地理の学習では、しばしば「現実世界のモデル」が作成されることがあります。それはどういう意味を持っていますか。地理的モデルを作成する際の、メリットとデメリットは何ですか。地理のどの分野において「モデル」がもっとも一般的ですか。
- ・ 地理においては、測定できる内容とそうでない内容とがあります。これは事実でしょうか。数値化ができない「質」とはどんなことでしょうか。
- ・ 人間が個別で固有であるとするならば、信頼性のある法則は人文地理学において全くない、ということの意味するのでしょうか。
- ・ 地理学者を含め多くの人が、人間社会の多様性を尊重しています。ということはすなわち、グローバル化（地球規模化）とは悪いこと、ということになるのでしょうか。

「個人と社会」（グループ3）のねらい

グループ3「個人と社会」の全教科は、以下の点を学習のねらいとしています。

1. 「人々の経験と行動」、「物理的・経済的・社会的環境」、「社会制度や文化的慣習の発展とその歴史」について、体系的かつ批判的な学習を奨励する。
2. 個人と社会の性質や活動についての理論、概念、議論を特定して、それらを批判的に分析、評価する力を育む。
3. 社会を研究するためのデータを収集して詳しく述べ分析する能力、仮説を検証する能力、複雑なデータや文献を解釈する能力を育む。
4. 学ぶということは自分たちが属する社会の文化と他の社会の文化の双方に関連するものであるという理解を促す。
5. 人々の態度や意見は多様であり、社会の研究にあたってはその多様性を受け入れる必要があるという理解を育む。
6. グループ3の科目の内容や方法論には議論の余地があり、この分野の学問では不確実性を容認する姿勢が求められるという認識を育む。

「地理」のねらい

上記に加え、「地理」（SL・HL）では、以下の点もねらいとしています。

7. 人、場所、空間と環境の間の相互関係についての理解を深める。
8. 人間の福祉および環境の質への関心を高め、持続可能な管理および計画に対する理解を深める。
9. 現代的な問題と課題を分析するにあたっての地理の重要性を認識し、多様性と変化についての国際的な視野を育む。

評価目標（Assessment Objective：A Oと表記）

DP地理コース（SL・HL）には、4つの評価目標があります。SLとHLに関係なく地理コースを履修する生徒には、下記のことが期待されます

1. 特定の内容に対する知識と理解を示す。
 - コアテーマである「パターン」と「変化」に対する知識と理解を示す。
 - 2つのSLオプショナル・テーマと3つのHLオプショナル・テーマに対する知識と理解を示す。
 - HLの場合のみ、HL発展項目である「グローバルな相互作用」についての知識と理解を示す。
 - 内部評価では、特定の地理的調査主題についての知識と理解を示す。
2. 知識と理解の応用と分析とを行う。
 - 地理的な概念と理論を応用し分析する。
 - 知らない情報、データ、地図作成資料にみられる地理的パターンとその過程を特定し、解釈する。
 - 個々の学習内容で、理論や概念をどの程度認識し理解しているかを示す。
3. 統合し評価する。
 - 地理的な概念、理論、知覚について考察し、評価する。
 - 地理的概念と例を用いて、議論を構築し、発表する。
 - 地理的なフィールドワークに適した方法を用いて、資料を評価する。
 - HLの場合のみ、HL発展項目である「地球規模での相互作用」について統合し評価する。
4. 多様で適切なスキルと手法を選択、使用、応用する。
 - 適切な文脈において指定された地理的スキルと手法を選択し、使用し、応用する。
 - 適切な用語を用いながら、よく構成された文書資料を作成する。
 - 地理の研究課題リサーチクエストに対し適切なスキルと手法を選択し、使用し、応用する。

評価目標の実施

目標	試験問題 1	試験問題 2	試験問題 3	内部評価	概要
1. 特定の学習内容の知識と理解	45%	35%	35% (H L)	20%	35% (S L) 30% (H L)
2. 知識と理解の応用と分析	30%	30%	35% (H L)	20%	30%
3. 統合と評価	5%	10%	20% (H L)	20%	10% (S L) 15% (H L)
4. 多様で適切なスキル・技術の選択、活用および応用	20%	25%	10% (H L)	40%	25%

指示用語

指示用語の解説

シラバス内の「評価目標レベル」の項には、主な指示用語が示されています。これは、「シラバスの構成」の項で説明されているように、生徒に要求されている理解の深さの指標です。指示用語は評価目標に従い以下の定義に基づいて分類されています。

- ・ 評価目標 1 特定の学習内容の知識と理解
- ・ 評価目標 2 知識と理解の応用と分析
- ・ 評価目標 3 統合と評価
- ・ 評価目標 4 多様で適切なスキル・技術の選択、活用および応用

評価目標 1 から評価目標 3 レベルと、段階的に要求されるものが高くなります。一方、評価目標 4 の指示用語は特定のスキルと試験問題に特有なものです。以下の表は、各分類に属する指示用語を列挙したものです。

生徒は、試験問題で求められる解答の深さを理解するために、これらの用語によく慣れておく必要があります。試験問題では、シラバス内の「学習展開」の欄に説明されている内容と同等あるいはより難易度の低い指示用語が使われます。たとえば、「学習展開」の欄に使われている指示用語が、評価目標 2 に分類される「説明しなさい」であった場合、試験問題には「説明しなさい」が出るかもしれません。または、同じく評価目標 2 に分類される「提案しなさい」という指示用語を用いた問題が出題される場合もあれば、それより

1つ難易度が低い評価目標1の「詳しく述べなさい」と指示する試験問題が出題される場合もあります。試験問題の点数の割合は、この評価目標の分類を反映します。

下記のコマンド用語の定義は付録に記載されています。

目標	指示用語	深さ
評価目標1 特定の学習内容の知識と理解	定義しなさい 詳しく述べなさい 決定しなさい 概算しなさい 特定しなさい 簡単に述べなさい 述べなさい	知識と理解を示すことが求められます。
評価目標2 知識と理解の応用と分析	分析しなさい 分類しなさい 区別しなさい 説明しなさい 提案しなさい	知識と理解を応用し、分析することが求められます。
評価目標3 統合と評価	比較しなさい 比較・対比しなさい 対比しなさい 論じなさい 評価しなさい 考察しなさい 正当化しなさい どの程度	証拠に基づき判断を下し、必要に応じて議論を構築することが求められています。
評価目標4 多様で適切なスキル・技術の選択、活用および応用	注釈を付けなさい 作成しなさい 描きなさい／図示しなさい 名称を付けなさい	スキルの選択と応用を示すことが求められます。

シラバスの概要

シラバスの内容	授業時間数	
	SL	HL
地理的なスキル—コース全体		
パート1：コアテーマ「パターン」と「変化」(SL/HL) コアテーマには、4つ必修トピックがあります。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 人口の移り変わり 2. 富と開発における不均衡 3. 環境の質と持続可能性のパターン 4. 資源消費におけるパターン 	70	70
パート2：オプション・テーマ (SL/HL) オプション・テーマは 7つ あります。各テーマには30時間の指導時間が必要です。 SL では、 2つ のオプション・テーマが必修となっています。 HL では、 3つ のオプション・テーマが必修となっています。 <ol style="list-style-type: none"> A. 淡水—課題と紛争 B. 海洋と海岸線 C. 極限環境 D. 危険と災害—リスク評価と対応 E. 余暇活動、スポーツ、観光 F. 食料と健康の地理 G. 都市環境 	60	90
パート3：HL 発展項目—地球規模での相互作用 (HLのみ) HL 発展項目には必修題材が 7つ あります。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 地球規模の相互作用を測ること 2. 変化する空間—縮小する世界 3. 経済的な相互作用と流動 4. 環境の変化 5. 社会文化的な交流 6. 政治的な成果 7. ローカルなレベルでの地球規模の相互作用 		60
フィールドワーク (SL/HL) フィールドワークを通じて、ひとつのフィールドワーク ^{クエスチョン} 調査課題に基づいた情報収集、評価を伴う分析を含む記述レポートを完成させます。	20	20
総授業時間数	150	240

地理教育へのアプローチ

推奨される授業時間は、SLでは150時間、HLでは240時間です。シラバスは、学習における詳細な分析、評価、統合のために充分時間をとるように作成されています。

教師は、生徒の興味と学校がもつ資源リソースに沿ってコースを構成する方法を見出すことを奨励されています。コースの全体的な目的は、生徒が地理の本質と領域内容について深い理解を促すことです。コースの様々な部分がお互いを補完する必要があり、コース全体を通して地理的スキルを身に付けなくてはなりません。

シラバスの構成

コアテーマ、オプショナル・テーマ、HL発展項目の3部分それぞれは、**トピック**（それらはさらに「サブトピック」に分けられています）、**学習展開**、そして、**授業時間数**の3つの欄で提示されています（下記参照）。

サブトピック	学習展開	授業時間数
1. トピックのタイトル		
・ 特定のサブトピック	この欄ではトピックの範囲を定義し、要求される知識レベルとパフォーマンスの種類を説明することで、トピックの内容を明確にしています。各サブトピックで使用される指示用語は要求されている学習の深さ、つまり、学習成果を定義しています。	時間数は、授業にかかる 推定 時間を示しています。

記載されている内容の順番は、コアテーマ、オプショナル・テーマ、HL発展項目の部分において学習される順番を示しているものではありません。多くのトピックとサブトピックは相互に関係しているため、教師は包括的なアプローチで教えることを奨励されています。たとえば、ある1つのケーススタディーがいくつかのサブトピックを扱うことがあります。

この欄に記載されているトピック以外から試験問題が出題されることはありませんが、コアテーマ、オプショナル・テーマ、HL発展項目の導入部分で触れられた内容（参照された内容）は、試験の質問のための文脈中で使われる場合があります。試験の質問は、このシラバスで使われ、学習展開の欄で特記されている、指示用語の範囲を超えることはありません。しかし、学習展開の欄に使われている指示用語が、試験の質問において全く

同じ用語（言葉）で書かれるというわけではありません。指示用語の定義と分類はこの手引きに記載されています。

「地理的スキル」の部分には、地理の手法の応用と適切な用語の使用とを生徒に可能にする、コースで要求されるスキルが記載されています。それらスキルは、シラバス全体（SLとHL）を通して取り扱われ、コアテーマ、オプショナル・テーマ、およびHL発展項目の内容に適切に用いられること、個別に取り扱うのではなく指導内容に完全に組み込まれていることが不可欠です。生徒は、外部評価と内部評価の両方の試験で、それらのスキルを適切に使って自分の能力（コンピタンス）を示すことが期待されています。

どの試験問題においても地形図に参照を求める内容が出題される可能性があり、生徒は地形図に慣れ親しんでいる必要があります。地形図は、たとえば、「淡水-課題と紛争」、「海洋と海岸線」、そして、「都市環境」といったテーマに特に関係しています。

コアテーマ、オプショナル・テーマ、HL発展項目は、時には個人的な偏見と価値観に影響される知識の分野を扱うことがあります。教師はそれを意識して、生徒に事実を教えるだけでなく、分析するスキルを教えることで、生徒がそれらの事実を正確に解釈し、評価できるように指導することが重要です。

指導について

ケーススタディーと事例の使用

内容を説明するため、適切なところでケーススタディーと事例が用いられます。

ケーススタディーとは、議論のために位置付けられた詳細な事例、あるいは多方面にわたるアプローチです。ケーススタディーには最近の事例を用いることが望ましく、そこではつまり歴史的な事柄ではなく、生徒が生まれてからの期間で起こったことを取り上げる必要があります。歴史的な事例をケーススタディーとして使用した場合は、減点の対象となります。たとえば、火山による災害の例としてポンペイの大災害を用いることは推奨されません。非常に古い事例では、最近の事例の場合にはもたらされる幅広く詳しい解答が得られないことが多いからです。その理由は、現在の研究と報告は一般的に、過去の記録よりもはるかに多くのデータを含んでいるからです。

解答においてケーススタディーが必要な場合、設問にそのように記載され、生徒に指示が与えられます。ここでは、ケーススタディーを設問の要求に合致させることがもっとも重要です。ただし、ケーススタディーを用いて生徒がさらに深く回答を展開することが、可能な限り推奨されます。

事例を使用する場合、生徒は1つの単語による回答ではなく、それをより発展させた回答をしなくてはなりません。

コース全体で推奨される教授アプローチは、概念に焦点を当て、ケーススタディーと事例を用いてそれらの概念を論証することです。

それぞれの学習で用いられる適切なケーススタディー数についての助言が、コアテーマ、オプション・テーマ、およびHL発展項目に関する手引きの部分にあります。

シラバス内で扱われる概念

シラバス全体を通して扱われる概念は数多くありますが、その定義は出典によって異なります。混乱を避けるために、このシラバスに関連する概念の一般的な定義を下記に記載します。あるテーマに特定のその他の概念は、必要であればそのテーマに関する指導の手引きの部分に記載されています。オプション・テーマ「危険と災害—リスク評価と対応」などがその例です。

概念	定義
現代 (の)	生徒が生まれてから起こった出来事に関すること。
地理的	ある領域の地理に影響を与えたり、影響を受けたりするもので、人口学的、環境的、社会的、文化的、経済的、政治的、地政学的な要素すべて。
地政的	地域や国に関連したり影響を与えたりする位置的要因と、政治的な要因が組み合わさったもの。
経済開発が遅れている国／経済開発より進んでいる国、豊かな／貧しい国、北／南	これらの用語は、このシラバスには使われていませんが、教師が適切だと感じた場合は使用しても構いません。
パターン	この用語は、空間的な要素の配置または変化を取り扱っています。(「傾向」と比較してください)
現在の (2000 年以降の)	2000 年以降に起こった出来事に関することです。
傾向	この用語は、時間上での変化を取り扱っています。(「パターン」と比較してください)
スケール	シラバス内のトピックは、様々なスケールで学習されるべきです。 <ul style="list-style-type: none"> ローカルなスケールは、限られた範囲を示します。 全国的なスケールは、国を示します。 地域的なスケールは、いくつかの要素 (経済、政治、立地) を共有するいくつかの国を含む地域を示します。 グローバルなスケールは、世界全体を示します。
社会・経済的	社会的要因 (人口統計学、文化および政治を含む) 経済的要因の組み合わせです。
方略	運営方針、新たな取り組みとその計画に関することです。

地理的モデル

生徒は特定のトピックに関連する概念をモデルを用いて学ぶことができますが、試験問題では特定のモデルについての事前の知識は求められません。

直接的情報と間接的情報

直接的情報とは、フィールド（野外）における測定と観察を通して収集された資料とデータから得た情報を指します。この情報には質的情報および量的情報の双方を含めることができます。間接的情報は、すでに文書や統計、あるいは地図の形式でまとめられている（編集されている）情報です。たとえば、国際連合（国連）機関、非政府組織（NGO）、政府刊行物、統計年鑑、電話帳、人口調査報告書（国勢調査報告書）、インターネットやCD-ROMなどの情報源からの資料を含みます。

課題論文の地理トピック

シラバス内容のほとんどの部分が、課題論文に取り組むための際の深い分析と調査に適しています。トピックの多くが、課題論文に向けた幅広い機会を提供していますが、制限語数（字数）内で十分な解答ができるよう、研究課題はあまりにも広範ににならないように配慮が必要です。また、狭い研究領域を深く論ずるという要件があることも忘れてはいけません。また、課題論文には空間的要素が必須要件であるということにも注意が必要です。

コアテーマに含まれるトピックのグローバルな性質は、課題論文のテーマには向かないこともあります。ただし、研究の領域（区域）がローカルなスケールでさえあるならば、課題論文における根本的な概念を調査することは可能なはずで、課題論文でのフィールドでのデータ収集は必須ではありませんから、研究課題は、フィールドワークを基礎にする課題よりも幅広くなり、直接的フィールドワーク以外からもたらされる情報に基づくこともできます。

I Bの学習者像

地理のシラバスは、国際的な視野をもつ人間を育成し、人類に共通する人間らしさという性質と、ひとつの惑星を守るという共同責任を認識し、より良い、より平和な世界を築くことに貢献する人間を育てる、というI Bの学習者像と深く関わっています。地理のシラバスに従うことで、生徒はI Bの学習者像の特性を育みます。たとえば、内部評価の必須項目は、生徒にその学習者像のすべての項目を養う機会を与えます。

地理シラバスに記載されたスキルと学習内容が、I Bの学習者像のどの特性に合っているかの例を下記に挙げています。

学習者像の特性	地理のシラバス
探究する人	地理的スキル：関連する地理的情報を収集・選択する
知識のある人	学習内容：コアテーマ、オプション・テーマ、HL 発展項目
考える人	地理的スキル：情報やデータの調査・処理・解釈。処理能力、解釈能力。
コミュニケーションができる人	地理的スキル：(論文、レポート、調査を含む) 文書の作成 学習内容：「知の理論」との関連付け
信念をもつ人	地理的スキル：調査・処理・解釈 意見・価値感・観点を認識する 理由付けられた決定を行う
心を開く人	地理的スキル：信頼性、偏見、関連適切性や正確さなどの観点から地理的情報源を評価する
思いやりのある人	学習内容：コアテーマ
挑戦する人	地理的スキル：理由付けられた決定を行う
バランスのとれた人	フィールドワーク：直接的情報の収集とその取り扱い、情報の提示と分析
振り返りができる人	地理的スキル：方法論の評価 明確かつ論理的な議論を展開し、適切な場で結論を導き出す

オンラインカリキュラムセンター（OCC）

地理コースの教師は全員、オンラインカリキュラムセンター（OCC）に定期的にアクセスすることを強くお勧めします。OCCサイトでは、どの教師も質問を投稿したり、良い指導例を紹介したり、アドバイスや資料例にアクセスしたりすることができます。OCCの地理フォーラムの内容は、地理教師のために地理教師によって提供されているものです。ウェブサイトには資料のアップデートとよく寄せられる質問なども含まれています。

地理的スキル（SL／HL）

これらのスキルは地理の研究に欠かせないもので、この科目に独特な方法論とアプローチを反映しています。これらのスキルを教えることで、生徒は地理に対する知識を豊かにし、手法を用いたり適切な地理用語を使ったりすることができるようになります。これらのスキルの指導は、シラバス**全体**に組み込まれていることが不可欠で、学習内容によって適切な場合には別のテーマやHL 発展項目に導入または組み込まれても構いません。また、それらスキルは、コース中の段階ですべて教えられること、個別に扱われないことが不可欠です。

生徒は、^{ペーパー}試験問題と内部評価において地理的スキルを用いる能力を適切に示すことが期待されています。下記に太字で示されているそれらのスキルは、外部評価における試験問題では評価測定対象ではありません。

地理情報システム（GIS）を使える能力は下記に記載された多くのスキルを超えて貴重な地理的なツールとなります。GISは使いやすく実用的なので、ぜひ使用してください。ただし、シラバスはGISを必要とされておらず、評価には使われません。

スキル	例
地球の表面の要素を位置付け、識別する。	使用するもの： <ul style="list-style-type: none"> ・ 方位（方角） ・ 緯度 ・ 経度 ・ 方眼枠的位置参照系と地区参照系 ・ スケール（縮尺） ・ 政治的単位（国・都道府県等）
解釈、分析し、適切な場合には表、グラフ、ダイアグラム、地図作成資料、映像を作成する。	下記を含むすべての種類の地図： <ul style="list-style-type: none"> ・ 等値線と等値線図（等充線図含む） ・ 階級区分図（コロプレスマップ） ・ トポロジカルマップ（位相的地図） ・ ドットマップ（点描図） ・ 流動図・流線図 ・ 主題図（メンタルマップを含む） ・ 地形図 ・ 図形表現図 ・ 空中写真 ・ 地上写真 ・ 衛星画像 ・ 散布図、線グラフ、棒グラフ、複合グラフ、三角図、対数グラフ、二極グラフを含むグラフ ・ 円グラフ ・ フローダイヤグラム／チャート ・ 人口ピラミッド ・ ローレンツ曲線 ・ 断面図 ・ ローズダイヤグラム ・ 途上国の社会経済4指標によるグラフ
パターンを表示し、情報をまとめるための統計計算をする。	例： <ul style="list-style-type: none"> ・ 合計 ・ 平均値（平均値、中央値、最頻値） ・ 頻度 ・ データのレンジ（最大値と最小値の差） ・ 密度 ・ パーセンテージ（百分率） ・ 比率

スキル	例
<p>情報やデータのリサーチ、処理、解釈</p>	<p>情報やデータの種類：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 相互関係の尺度（スピアマン順位相関とカイニ乗を含む） ・ 集中と分散の尺度（最近隣指数と立地係数を含む） ・ 空間的相互作用の尺度 ・ 多様性の尺度 ・ 指数と比率（ジニ係数、エコロジカルフットプリント、人間開発指数（HDI）、従属人口率を含む） ・ 文字情報 ・ 観察・観測した情報 ・ 意見・価値観・観点 <p>処理し解釈する：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 情報やデータを分類する。 ・ 情報やデータを分析する。 ・ パターン、傾向、および関係を記述する。 ・ 一般化し、例外を識別する。 ・ 推論や予測を行う。 ・ 理由付けられた決定を行う。 ・ 結論を導き出す。 ・ 方法論を評価する。
<p>関連する地理的情報を収集し、選択する。</p>	<p>製作：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 観察・観測資料 ・ 画像 <p>実施：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ インタビュー <p>測定：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 測量
<p>地理的情報源を評価する。</p>	<p>以下の点で：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 正確さ ・ 関連（の）適切性 ・ 偏見
<p>書面にて資料を作成する。 （論文、レポート、調査を含む）</p>	<p>提示：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 明確でよく構成された資料 <p>解答：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 指示用語に適切である。

パート1：コア

パターン（一般的傾向）と変化

コアテーマでは、現代の地球的課題の問題解決に向けた地理の本質に近づくために、その全体像を取り扱っていきます。このような主題を設定する目的は、とりわけ、貧困の削減、男女平等、健康と教育の向上、環境の持続可能性といった地球的課題の問題解決に向けた各トピックや国連ミレニアム開発目標（MDGs）に対して、多面的・多角的に事実をみる観点を養うためです。これらの目的の達成に向けた進展に対しての評価についても取り扱っていきます。

コアテーマはまた、現代世界の重要な課題である、地球環境変動の要因とその影響に関する知識を深めさせます。この課題を理解することは、自然環境の保全と持続可能性の模範的なモデルを考えるうえで重要な基礎となります。

（中核となる）主題を追究する授業での重要なことは、多くの内容や結果として生じる局地的および世界規模での地域的パターンの根底にある概念に基づくことです。留意すべきことは、変化に関して悪い面だけでなく、良い面にも注目することです。さらに、人口的、経済的、環境的課題を網羅する解決策を提唱するにあたって責任をもつこと、そして、場合によっては、課題の解決を成功に導くようなマネジメント戦略にも留意すべきでしょう。

できるだけ多くの内容を適切な事例で学ぶ、換言すればケーススタディーで学ぶことが望めます。その際には、経済発展のレベルが異なる3から5カ国といった限られた数の中で、適切な国を選択するようにします。独自の特徴が、国内の地方区分、またはローカル・スケールで様々に見られることにはなりますが、コアテーマでは、国レベル、もしくは国の集合体としての地域レベル、あるいは地球スケールでのパターン（一般的傾向）を扱うものとします。

いくつかの課題では複数のトピックが関わりあっていることから、各トピックが順に教えられることは、意図されていません。授業での教え方はあらかじめ決められるものではなく、内容は教師の関心や生徒の要求に従って柔軟に変えることができます。

定義

コアテーマの学習で使われる用語の定義は、出典により異なります。混乱を避けるため、以下の定義を用います。これにより生徒の理解の向上が期待されます。

用語	定義
中心と周縁	中心にある発展した部分は、非発展の周縁によってとり囲まれているという概念
エコロジカルフットプリント	人間が必要な物資を手に入れるために必要な土地面積や水の量、現在の技術によって廃棄物を処理するのに必要な土地面積などを理論的に計って表した指標。
地球環境変動	降水量、気温、海水準、生息環境や、干ばつ、洪水、竜巻といった大気の変動がもたらす事象のグローバルパターンの変動。主にその原因は温室効果ガスにあるとみられている。
GNI	国民総所得（今日では国民総生産—GNPよりも優先して用いられている）。国内で生産される商品やサービスの価値と、他国からの収入を、他国への支出を差し引き総合計したもの。
移民	居住地の変更を伴う人々の移動。国内的にも国際的にも起こる。また、自発的なものと強制されるものがある。通勤や観光など一時的な人口流動は含まない。
送金	外国人労働者が自国へ金銭や財を送ること。
土壌荒廃	土壌の質の悪化。土壌侵食、塩類化、土壌無栄養化（肥沃度の喪失）を含む。
水不足	以下の2つの定義を用いる： <ul style="list-style-type: none"> ・ 物理的水不足。水の持続可能な利用量を超えた、あるいは超える状態に近づいたことによる欠乏の状況。これは、水の利用可能性を水の需要量と関連付けたもので、乾燥地帯が必ずしも水不足とは限らないことを示唆する。 ・ 経済的水不足。地域には水が存在しているにもかかわらず人的・組織的・資金的理由で利用できない状況。

詳細

サブトピック	展開	時間数
1. 人口の移り変わり		
・ 人口変動	世界のなかで対照的な地域を比較しながら出生（粗出生率）、自然増加、死亡（粗死亡率、乳幼児死亡率）、出生力（合計特殊出生率）、平均寿命における人口動態およびパターンについて説明します。人口ピラミッドを分析します。人口モメンタムとそれが人口推定に与える影響について説明します。	5時間
・ 多産、少産への反応	高齢化率と従属性について説明する。青年人口と老年人口の影響について調査する。人口増加政策あるいは人口抑制政策の事例について評価します。	4時間

サブトピック	展開	時間数
・ 移動への反応—移民	移民の原因について自発的なものと強いられたものと両方について論じます。移民の流出国および流入国における地理的（社会経済的、政策的、自然環境的）インパクトの観点から、国内移民、国際移民について議論します。	6 時間
・ ジェンダーと変革	文化、地位、教育、出生率、健康、雇用、権限、生活予測、家族規模、移民、法的権利、土地所有に関するジェンダーの不公平について考察します。	4 時間
2. 富と開発における不均衡		
・ (国の集合体としての) 地域的な格差、グローバルな格差の尺度	乳幼児死亡率、教育、栄養状態、収入、周縁化、人間開発指数 (HDI) の指標について特定します。地球上の格差を計測するための指標の意義について説明します。	3 時間
・ 格差の根源	民族、居住地、親の教育、収入、(公式・非公式を含めた) 雇用および土地所有に起因する格差と不公平について説明します。	3 時間
・ 格差と変動	生活予測、教育、収入の格差についてのパターンとトレンドについて、(国の集合体としての) 地域とグローバルのスケールで、それぞれ特定し説明します。	5 時間
・ 格差の是正	<p>貧困削減、教育、健康といった分野におけるミレニアム目標を実現するための展開について調査します。</p> <p>貿易、市場アクセス、債務救済、支援、送金など、格差是正のための様々な方法について議論します。</p> <p>格差是正のために組み立てられた戦略の有効性を評価します。</p>	5 時間
3. 環境の質と持続可能性のパターン		
・ 大気と変動	大気システムの機能について、太陽放射と長波放射のエネルギーバランスの点から詳しく述べます。外部要因によるエネルギーバランスの変動を説明する。外部要因には太陽放射の変動、大気のアルベドの変動、長波の地球外への放射変動がある。地球環境変動の原因と自然環境に与える結果について議論します。	4 時間

サブトピック	展開	時間数
・ 土壌と変動	土壌劣化の原因を説明する。土壌劣化プロセスの自然環境的・社会経済的な帰結について議論する。その際、マネージメント戦略のあり方も含めて議論をします。	4 時間
・ 水と変動	(国の集合体としての) 地域における水の利用方法について説明する。物理的水不足と経済的水不足におけるパターンとトレンドに影響を与える自然環境要因と人為的要因について調査する。安全な飲料水へのアクセスに影響を与える要因について調査します。	5 時間
・ 生物多様性と変動	熱帯雨林における生物多様性の概念とその重要性について説明します。	3 時間
・ 持続可能性と自然環境	自然環境の持続可能性概念について定義する。自然環境の持続可能性を実現するためのマネージメント戦略を、ローカル・スケールまたは国家間規模で評価します。	3 時間
4. 資源消費におけるパターン		
・ 資源消費のパターン	人口規模と資源消費の関係を測る指標としてのエコロジカルフットプリントを調査します。各国のスケールに応じた様々なあり方を特定します。人口規模と資源消費の関係について、ネオマルサス主義とアンチマルサス主義という2つの対立する見方について論じます。	4 時間
・ エネルギー消費パターン の変革	原油の生産・消費におけるグローバルパターンとトレンドを調査します。 これらの変革による地政学的・環境的な影響を、パターンとトレンドで調査する。ほかのエネルギー資源の重要性の変化を調査します。	2 時間 6 時間
・ 保全戦略	保全、ゴミ削減、リサイクル、代替品による資源消費の削減について論じます。資源消費削減に向けた戦略をローカル・スケールまたは国スケールで評価します。	4 時間

パート2：オプション・テーマ

オプションA：淡水—課題と紛争

ここでは希少資源としての淡水に焦点を当てます。具体的には、人間がどのようにして淡水の量や質を管理するという容易ではない試みに対応しているか、そして管理した結果どのようなことがもたらされているか—人間が意図した結果、意図しない結果、ポジティブな結果、ネガティブな結果を含め—を扱います。テーマには、淡水の自然地理学的内容（基礎的な水文学や洪水）と、水質への人的影響の両方が含まれます。

このテーマでは、流域レベルで**少なくとも1つ**の詳細な事例研究を行う必要があります。追加的な事例を示す際には、適切なスケールの範囲において、細部にわたりすぎない学習の程度で参照します。

定義

このテーマ（「淡水—課題と紛争」）を学習する際に使われる用語の定義は、出典により異なります。混乱を避けるため、以下の定義を用います。これにより生徒の理解の向上が期待されます。

用語	定義
地域	河川の本流と支流によって構成される地域
流域界	分水嶺としても知られており、隣接しあう河川もしくは流域の境界となる線
最大維持可能生産量（MSY）	ある地域において、永続的に水資源を維持することができる水の最大使用量
湿地	地表水や地下水により定期的に湿る場所で、沼地、湿原、泥炭地を含む

詳細

サブトピック	展開	学習時間
1. 水系		
<ul style="list-style-type: none"> 水循環 水収支 	<p>水循環における降水、蒸発、貯留、移動について考察します。海水と氷河における水貯留量のバランスの変化の原因と結果について論じます。</p> <p>降水と蒸発のバランスの点から、淡水の最大維持生産量の概念について説明します。</p>	3時間
2. 流域と洪水		
<ul style="list-style-type: none"> 流域 	<p>降水、蒸発、移動、貯留、ならびにフィードバックをもった開放システムとして流域の機能について考察します。</p>	2時間
<ul style="list-style-type: none"> 流量 	<p>河川流量を定義します。流れと流路形状の関係について考察します。</p>	1時間
<ul style="list-style-type: none"> ハイドログラフ 	<p>ハイドログラフの特徴を詳しく述べます。ハイドログラフにみられる空間的および時間的（短期および長期）変化の理由について考察します。洪水の規模や空間的な拡大、発生のタイミングの予測に際してのハイドログラフの役割について考察します。</p>	3時間
<ul style="list-style-type: none"> 洪水 	<p>ある特定の河川洪水について、自然的な側面・人的な側面から原因と結果を論じます。</p>	3時間
3. 課題の管理とその方策		
<ul style="list-style-type: none"> ダムと貯水池 	<p>ダムや貯水池の建設に起因する水文学的变化について考察します。多目的のダムや貯水池に必要なとされる費用と便益について考察します。</p>	2時間
<ul style="list-style-type: none"> 氾濫原の管理 	<p>河川流の作用（侵食、運搬、堆積）を説明するとともに、氾濫原で見られる同作用で形成された地形を説明します。</p> <p>人間による氾濫原の改変とそれに伴う影響（洪水の可能性や洪水の規模など）について考察します。</p> <p>代替となる河川管理方策の費用と便益について評価します。</p>	3時間

サブトピック	展開	学習時間
・ 地下水の管理	讃井・帯水層の働きとその管理について、自然かん養と人工かん養とを区別しながら説明します。地下水の汲み上げが環境に与える影響について考察します。	2時間
・ 淡水湿地の管理	水資源としての湿地の役割について詳しく述べます。主要な湿地で採用されてきた管理方策の有効性について評価します。	2時間
・ 灌漑と農業	土壌の塩類化、農薬の流出、地下水の汚染、湖・川・湿地の富栄養化など、農業や灌漑による水質への影響について考察します。	3時間
4. 競い合う水需要		
・ 地域あるいは国家スケールでの争い	ある特定の河川流域における水需要の競い合いについて考察します。そこでの要求を満たすために採用されている方策を評価します。	6時間
・ 国際的スケールでの争い	淡水をめぐる国際的な争いの例について論じます。	

オプションB：海洋と海岸線

地球の表面の70%以上を覆っている海洋は、人間にとって様々な側面で非常に重要なものです。このテーマでは、気候状態に大きな影響を与える重要な役割を海洋が担っていることを中心にしながら、大気と海洋との関係性にとりわけ注意を払い、海洋の自然的特徴とその作用（プロセス）を取り扱います。また、資源の宝庫としての海洋に起因する問題についても扱います。

海岸線のセクションでは管理に焦点を当てます。そのため、海岸に関する自然的特徴や自然的作用（プロセス）についての詳細な学習は求められませんが、管理の方法についての学習のためある程度の知識は必須です。

このテーマでの教材内容は、教えるための順番を示すようにまとめられています。いくつかのトピックにおいて、詳細な例やケーススタディーが必要になることに注意してください。

定義

このテーマ（「海洋と海岸線」）を学習する際に使われる用語の定義は、出典により異なります。混乱を避けるため、以下の定義を用います。これにより生徒の理解の向上が期待されます。

用語	定義
前進性海岸	土砂の堆積や海岸湿地が埋まる結果として成長している堆積海岸。なお、前進性海岸は離水（海面の低下もしくは土地の隆起）によっても生じる。
排他的経済水域（EEZ）	沿岸国が所有する沿岸から200海里までを上限に広がる領域で、海・海底・底土が有する経済資源に関して主権的権利が発生する。
海浜漂砂	波の作用によって海岸付近を流れる土砂の動き。沿岸漂砂ともいう。
海洋大循環ベルト	深層水の構造とその沈み込みにより引き起こされるグローバル熱塩循環で、表層水の大循環の原因とされる。
後退性海岸	主に侵食の力が強く働き、その結果海岸線が内陸の方に動いている海岸。後退性海岸は沈水（海面の上昇もしくは土地の沈降）によっても生じる。

詳細

サブトピック	展開	学習時間
1. 海洋への導入		
<ul style="list-style-type: none"> 海洋の分布 海洋の形態 海洋水 	<p>海や海流の分布について詳しく述べます。</p> <p>海洋地殻や大洋底の形態について、主要な特徴を詳しく述べます。</p> <p>プレートの境界部で発生する海底火山や海溝、トランスフォーム断層、中央海嶺について、その形成メカニズムを説明します。</p> <p>海水温度と塩分濃度に関して水平方向や垂直方向の空間的な変化を詳しく述べます。</p>	2時間
2. 海洋と気候		
<ul style="list-style-type: none"> エネルギー移動 エルニーニョ南方振動（ENSO） 二酸化炭素 	<p>海洋における熱移動のエネルギーや海洋大循環ベルトの重要性について説明します。</p> <p>エルニーニョ南方振動（ENSO）に関連させて大気と海洋の相互作用を説明します。</p> <p>エルニーニョ現象やラニーニャ現象について、またそれらの現象が与える気候、環境、経済への影響について説明します。</p> <p>二酸化炭素の貯蓄場所や発生源としての海洋の役割について考察します。</p>	4時間

サブトピック	展開	学習時間
3. 海洋の価値		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 資源の宝庫 ・ 漁業 ・ ケーススタディー 	<p>大陸棚や海洋、大洋底の堆積物に存在する生物資源および鉱物資源を特定します。</p> <p>乱獲に関して空間的および時間的な影響について考察します。</p> <p>持続可能な漁獲量を履行するための保護政策の事例（ケーススタディー）を評価します。</p> <p>海洋汚染の原因となっている物質や汚染の分布について詳しく述べます。</p>	4 時間
<ul style="list-style-type: none"> ・ 廃棄物 	<p>放射性物質、石油、化学物質の廃棄による海洋汚染の影響を論じます。</p>	3 時間
4. 海洋における地政学		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 主権 ・ 紛争 	<p>領域と排他的経済水域（EEZ）に関する国家の主権について論じます。</p> <p>水産資源以外の海洋資源をめぐる地政学的紛争について考察します。</p>	3 時間
5. 海岸線		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自然的特徴 	<p>海岸でのプロセス（潮汐、波の作用、海浜漂砂、風の作用）、岩質、細分区化プロセス、様々な海岸地形の間の関係について考察します。</p> <p>前進性海岸や後退性海岸に沿って見られる砂丘や崖など、海岸線に見られる主要な地形を特定します。</p>	4 時間
<ul style="list-style-type: none"> ・ 管理の方法 ・ ケーススタディー 	<p>土地利用をめぐる争いによる対立や、沿岸のハザード（津波や高潮、浸食、崖崩れ）管理、汚染、生息環境の復元、養殖などをめぐる対立について論じます。</p> <p>ある特定の海岸における対立の構造関係について詳しく述べます。</p> <p>これらの対立を解決するために採用する管理方法について論じ、その方法の有効性を評価します。</p>	6 時間
6. サンゴ礁やマングローブ		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 開発 ・ 原因と結果 	<p>サンゴ礁やマングローブ沼沢地の環境的価値や経済的価値および、それらの開発について考察します。</p> <p>サンゴ礁やマングローブ沼沢地の減少とその原因と結果について考察します。</p>	4 時間

オプションC：極限環境

ここでは以下の2種類の極限環境を扱います。

- ・ 寒冷で高緯度・高高度の環境（極地、氷河地域、周氷河地域、中・高緯度地方にある高山）
- ・ 高温・乾燥環境（高温砂漠や半乾燥地域）

これらの環境は比較的隔絶された場所にあり、人間の居住には過酷な地であると考えられています。にもかかわらず、人間はこれらの地に居住地や経済開発を幾度となく求めてきました。ここでは2種類の極限環境の景観の本質的特徴とともに、その環境を形成する自然の作用や人間によるその環境の利用の仕方や、環境の管理や持続可能性に関する課題にどう対応しているのか、について考察します。

いくつかの学習内容は地球規模の課題に焦点を当てていますが、他の部分では**1つ以上**のローカルな地域を取り上げたケーススタディーとして学ぶことが最適です。この2種類の極限環境について双方ともよく知っているという生徒はほとんどいないはずですので、大縮尺地図や視覚的教材を多く利用することが望まれます。

下記詳細では、このテーマを教えることができる1つの指導方法を提案していますが、別の方法も同様に有効です。最初に1つの極限環境のすべての内容を学習してから、もう1つの極限環境について考察するという指導方法を、教師が選ぶことも可能です。

詳細

サブトピック	展開	学習時間
1. 厳しい環境		
・ 極限環境の地球上での分布	極限環境の2つの種類それぞれの地球上における分布について説明します。 これらの環境を極限にしている地形的、気候的特徴を詳しく述べます。これらの特徴が、人間による資源開発や居住に対しどのように厳しさを与えているのかを説明します。	4時間
・ 人口	これらの地域において人口密度を希薄にしているその他の要因（たとえば、不快さ、非近接性、遠隔性など）を説明します。 極限の気候や天候に対して、人間はどのような活動で適応しているか、その方法を特定します。	2時間

サブトピック	展開	学習時間
2. 極限環境の自然的特徴		
・ 氷河環境	氷河の進退と、氷河による侵食作用や堆積作用に起因する主な地形の特徴を説明します。	3時間
・ 周氷河環境	永久凍土、構造土、ソリフラクション、サーモカルスト、ピンゴを説明します。	3時間
・ 高温、乾燥環境 (高温砂漠や半乾燥地域)	風成・水成作用を含む地形形成作用と風化作用について説明します。鉄砲水の発生を説明します。	4時間
3. 管理を要する事態と課題		
・ 農業	高温・乾燥環境の地域では、農業の可能性、乾燥と不毛の区別、灌漑の重要性と土壌の塩類化、砂漠化のプロセスと要因について考察します。	4時間
・ 鉱物採取	周氷河地域では、永久凍土やその他の周氷河的特徴がある地域での資源開発（鉱物採取とそれに付随する居住や交通）で引き起こされた事態と課題について考察します。	2時間
	高温・乾燥環境では、この地域での資源開発（鉱物採取とそれに付随する居住や交通）で引き起こされた事態と課題について考察します。	2時間
・ 観光	どちらか一方の極限環境において、観光開発やそれに関連した居住・交通で引き起こされた事態と課題について考察します。マスマーブメントや浸食、土地の荒廃、災害に対する脆弱性、美観の変化、水の利用状況や廃棄物処理などの環境に、観光が与える影響を考察します。	3時間
4. 持続可能性		
・ 人間活動	極限環境での人間活動が持続不可能な程度について論じます。	3時間
・ 影響	地球的な気候変動（地球温暖化）が極限環境の先住民や居住地、経済活動に与える潜在的な影響について論じます。	

オプションD：^{ハザード}危険と災害—リスク評価と対応

環境的^{ハザード}危険は自然地理と人文地理との境界に位置しています。人為的危険現象が自然環境条件の影響を受けている一方で、自然的危険現象も、人間の行動によって悪化する場合があります。そのため、自然的危険現象の研究における原則は、人為的危険現象の研究と同じものです。

このテーマでは、さまざまなスケールで発生する危険や災害に対する人間のさまざまな適応および対応に焦点を当てます。ただし、このテーマにおいては、「自然災害」という用語は意図的に避けています。それはその用語が、人々をリスクにさらし、災害の発生に不可避な前提的状况をつくり出す数々の根本的原因のすべてを正確に反映したものと考えられないからです。

このテーマの研究では、生徒は以下の**4つ**の危険について考察することが期待されます。

- ・ 地震**もしくは**火山
- ・ ハリケーン（熱帯低気圧、台風）
- ・ 干ばつ
- ・ 危険物質の爆発あるいは流出の結果生じている最近の人為的（科学技術的）危険のどれか1つ

これらの4つの災害は、必ずしも同じ授業時間の配分を必要としません。地域の特性によって授業時間の適切なバランスは異なります。シラバスは、柔軟な計画を許しますが、危険ごとの完全なテーマ別よりも、脆弱性、リスク、リスク評価といった概念による全体的アプローチを勧めます。危険事象（または災害）においては、4つの危険事象あるいは災害のそれぞれに対して、少なくとも**1つ**のケーススタディーを実施してください。

定義

このテーマ（「危険と災害—リスク評価と対応」）を勉強する際に使われる用語の定義は、参考とする出典により異なります。混乱を避けるため、以下の定義を用います。これにより生徒の理解の向上が期待されます。

用語	定義
災害	コミュニティや地域を広く混乱させ、それによってコミュニティが外部の助けなしに適切に機能しなくなるほど大きな危険事象。
危険	死亡や負傷・物的損害・社会経済的混乱や環境悪化などを引き起こす可能性がある（自然もしくは人間による）潜在的脅威。
危険事象	人口的・経済的状況や環境的状況を大きく変化させる危険の発生（顕在化）。
リスク	有害な結果（死亡や負傷・物的被害・経済や環境における損失を起こしうる）を引き起こす危険事象の可能性。
脆弱性	コミュニティが危険や危険事象の影響を受ける度合い。

詳細

サブトピック	展開	学習時間
1. 危険の特徴		
・ 特徴	<p>次の危険の特徴やその空間分布を説明します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地震あるいは火山 ・ ハリケーン（熱帯低気圧、台風） ・ 干ばつ ・ 危険物質の爆発あるいは流出の結果生じている最近の人為的（科学技術的）危険のどれか1つ <p>選択した危険を、空間的広がり、予測可能性、頻度、規模、継続時間、始まる速さと影響する速さなどの点から整理します。</p>	7時間
2. 脆弱性		
・ 脆弱な人々	人々が危険のある地域に住んでいる理由を説明します。	1時間
・ 脆弱性	<p>人口的・社会経済的要因の作用や、危険事象が発生した際のコミュニティでの備えや対処能力の作用として脆弱性を論じます。</p> <p>ある地域の人々が別のある地域の人々よりも脆弱なのはなぜか。その理由を説明します。</p>	3時間
3. リスクとリスク評価		
・ リスクの分析	<p>危険からもたらされるリスクの程度と危険事象発生確率との関係、予想される損失とそれに対するコミュニティの備えとの関係について考察します。</p> <p>個人やコミュニティが発生する危険事象発生確率をしばしば過小評価してしまう理由を説明します。</p> <p>危険からもたらされるリスクの個々人の知覚を左右する要因について論じます。</p>	3時間
・ 危険事象予測	<p>危険事象が（ある時間と空間で）で発生する確率と、生命と財産への影響可能性とを推定（予測）するために使用されているメソッドについて考察します。</p> <p>2つの異なる危険タイプに関するケーススタディーの考察を通して、これらのメソッドを論じます。</p>	3時間

サブトピック	展開	学習時間
4. 災害		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 災害 ・ 災害を測る 	<p>危険事象と災害とを区別します。 この区別は必ずしも完全に客観的でない理由を説明します。</p> <p>災害の空間的な広がりや強度を測るために使用するメソッドについて詳しく述べます。</p> <p>実際に起きた1つの自然的危険に起因した災害について、その原因と影響を考察します。災害について、原因と影響について考察します。</p> <p>最近起こった1つの人為的危険事象あるいは災害について、原因と影響を説明します。</p> <p>災害の強度や影響が、空間において異なったり、時間の経過とともに変化する様子について考察します。</p>	4 時間
5. 危険と災害への適応と対応		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 危険事象のリスクへの対応 ・ 事象が起きる前に ・ 事象が発生した後の短期的、中期的、長期的な対応 	<p>危険への適応・対応方策を決定する前に、リスクを評価することの有用性を論じます。</p> <p>土地利用計画（区域割り）やリスク拡散（援助、保険）によって脆弱性を減少させようとする試みについて詳しく述べます。</p> <p>潜在的な危険事象や災害からの被害を制限するように設計された方策を詳しく述べます。</p> <p>危険事象や災害の被災時あるいは被災後において、コミュニティレベル、国家レベル、国際的なレベルで行われる対応について詳しく述べます。</p> <p>それぞれの対応が救助なのか、復旧なのか、復興なのか区別します。</p> <p>これらの対応が個人やコミュニティの知覚をどれだけ反映しているか説明します。</p> <p>実際の危険事象あるいは災害への、発生前の適応および発生後の対応における選択に影響を与えた要素について考察します。</p> <p>ある大きな危険事象あるいは災害をとりあげ、リスク再評価と脆弱性再検討の重要性について論じます。</p>	<p>4 時間</p> <p>5 時間</p>

オプションE：^{レジャー}余暇活動、^{ツーリズム}スポーツ、観光

ここでは、**余暇活動**は、非労働時間帯で起こる自由に選択されたあらゆる活動や経験と定義されています。

余暇産業は、急速に拡大している重要かつグローバルな経済部門です。この單元では、余暇活動のパターンと多様性、余暇活動の人気の高まり、ならびにグローバルからローカルにわたるスケールにおける環境・文化・経済への余暇活動の影響を例証するように設計されています。余暇需要の充足、自然環境の保全、ならびに社会的摩擦回避においては、計画者・管理者に課題や論争が生じます。

テーマは特に**観光、スポーツ、レクリエーション**に焦点を当てています。3つの用語は、別々に定義されていますが、それらは互いに結びついており、活動は同時に行われることも考えられます。たとえば、休暇中の活動としてスポーツを行うようなことが考えられるでしょう。

定義

この単元のテーマである「余暇活動、スポーツ、観光」に関する用語の定義は出典により異なります。混乱を避けるため、以下の定義を用います。これにより生徒の理解の向上が期待されます。

用語	定義
(受入) 収容力	開催地 / イベントが一度に受け入れることができる訪問者 / 参加者の最大受入人数。これは、 環境的収容力 （地域の環境に被害を与えない限界の最大人数）と、 知覚的収容力 （たとえば騒音などの影響で、迷惑とならない限界の最大人数）とを区別するのが通例である。たとえば、若者を対象としたマウンテン・バイクのイベントのほうが、高齢者を対象とした登山より、多くの人数を受け入れられる場合がある。
余暇活動	非労働時間帯に行われる、自由に選択された活動や経験。
一次的な観光・レクリエーション資源	観光やレクリエーションのための既存の観光資源（観光目的のために特別に作られていない資源）で、気候、景色、野生動物、先住民（族）、文化な場所、遺跡などが含まれる。これらは、宿泊、飲食、娯楽、ショッピングを含む 二次的な観光・レクリエーション資源 と区別される。
レクリエーション	自主的に楽しむために行われる余暇時間における活動。これは、個人の趣味、計画した外出・行事、およびアマチュアスポーツを含む。
行楽・保養地（リゾート地）	観光機能を主とした集落。これは宿泊施設の複合体などを含む。
スポーツ	ルールや習慣を伴った身体活動。この活動には競争性があることがある。

用語	定義
観光	<p>余暇目的のために少なくとも一晩家から離れて行う旅行。この定義には、日帰り旅行を含まないことに注意する。観光は、多くの形態に細分化されている。サブグループは、次のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ エコツーリズム：自然環境と地域社コミュニティに焦点を当てた観光 ・ 遺産（ヘリテージ）ツーリズム：歴史的遺産（景観の特色、歴史的な建物や行事）を主要な魅力とし、この魅力をもとにした観光 ・ 持続可能なツーリズム：1次的な観光レクリエーション資源を守り、地元の人々の暮らしや文化を支援する観光

詳細

サブトピック	展開	授業時間
1. 余暇活動		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 定義付け 	<p>余暇、娯楽、観光、スポーツを定義しようとする中での問題点を論じます。</p> <p>これら活動の成長における、技術や豊かさの変化やアクセシビリティの影響を論じます。</p>	2時間
2. 国際規模での余暇活動：観光		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 需要の変化 ・ 供給の変化 	<p>国際観光における長期的および短期的傾向やパターンを説明します。</p> <p>いろいろな観光活動の立地、開発の変化について考察します。遠隔地にある観光目的地の成長について説明します。</p>	4時間
3. 国際規模での余暇活動：スポーツ		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 国際的な参加と成果 ・ 現代の国際的スポーツ行事のケーススタディー 	<p>2つの主要な国際的スポーツ行事における参加と成功に影響を与える社会的・文化的・経済的・政治的要因について考察します。</p> <p>開催地の選択に影響を与えた地理的要因を分析します。</p> <p>参加者やファンを動かす集団・領域へ影響を与える要因について考察します。</p> <p>そのような行事を運営することの地理的な費用と利益について、短期と長期で、ローカルな地域レベルおよび国家のレベルで評価します。</p>	4時間

サブトピック	展開	授業時間
4. 国・地域スケールでの余暇活動：観光		
<ul style="list-style-type: none"> ・ ケーススタディー： 国規模の観光産業 ・ ケーススタディー： エコツーリズム ・ 開発方策としての観光 	<p>観光の経済的・社会的・環境的な影響について考察します。</p> <p>観光産業を管理し持続させるために計画された方策を評価します。</p> <p>低所得国のための開発方策としての観光の重要性について考察します。</p>	6 時間
5. 国・地域スケールでの余暇活動：スポーツ		
<ul style="list-style-type: none"> ・ ケーススタディー： 国規模のスポーツリーグ 	<p>リーグの階層性やそれらチームの立地を説明します。チームの立地と、そのチームのファンの居住地との関係について考察します。</p>	3 時間
6. ローカルなスケールでの余暇活動：観光		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 都市域における観光管理 ・ 農村域における観光管理 	<p>1つの著名都市や大都市を取り扱います：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1次のおよび2次的な観光・レクリエーション資源の立地と分布を詳しく述べます。 ・ 観光客の需要を管理し、受入を最大化するとともに、地元住民と観光客の間での対立を最小限に抑え、環境への損傷を回避するように計画された方策を論じます。 <p>農村観光地における受入収容力の概念について考察します。</p> <p>受入収容力を最大化し、地元住民と観光客の間での対立を最小限に抑え、環境への損傷を回避するように計画された方策を論じます。</p>	4 時間
7. 地域スケールでの余暇活動：スポーツ・レクリエーション		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 余暇の階層性 ・ 都市内の空間パターン ・ 都市再生 	<p>諸都市とレクリエーション施設・スポーツ施設との間の関係を、頻度・規模・範囲・利用者吸引圏の点から説明します。</p> <p>都市内部域におけるレクリエーション施設・スポーツ施設の立地と分布について考察し、そのパターンを近接性、地価、(中心業務地区CBDから都市農村境界地域に至る)各都市区域の物理的・社会経済的特性と関連付けます。</p> <p>都市地域の再生方策におけるスポーツとレクリエーションの役割を論じます。</p>	4 時間

サブトピック	展開	授業時間
8. 持続可能な観光（サステイナブル・ツーリズム）		
・ 持続可能な観光（サステイナブル・ツーリズム）	<p>持続可能な観光（サステイナブル・ツーリズム）を定義します。</p> <p>いろいろな環境において、それがどの程度成功裏に実施されたかについて考察します。</p>	3時間

オプションF：食料と健康の地理

このテーマは、人々の健康は十分な食料、バランスのとれた栄養、ならびに疾病の減少の直接的な結果である、という前提に基づいています。これらは広い知識領域に及んでおり、時間の限られた制約により、ある部分では内容の深さよりも幅広さを扱う必要があるかもしれません。

健康に関するトピックはテーマへの導入として取り扱われ、後の2つのトピックである食料と疾病がより詳しく取り上げられます。食料と疾病のセクションは、MDGs（国連ミレニアム開発目標）のいくつか、とりわけ飢餓への挑戦と疾病との闘いに関連しています。

とりわけインパクトと評価が要求される場合は、詳細なケーススタディーを行うといいでしょう。病原菌媒介生物による疾病、水媒介疾病、性感染症による疾病のうち、2つの異なる類型から選んだ**2つ**の疾病のケーススタディーが必要です。

定義

この「食料と健康の地理」というテーマを学習するとき使用される用語の定義は出典により異なります。混乱を避けるため、以下の定義を用います。これにより生徒の理解の向上が期待されます。

用語	定義
フードマイル	生産者から消費者までの食料の移動距離の尺度。実際の距離または輸送中に消費されたエネルギーで測られる。
HALE（健康調整平均余命）	出生時の生存期待年数に、病気やけがで健康状態が悪い状態で過ごした時間を含めて調整した、健康寿命の指標。現在の、病気等の割合と平均寿命に基づいた、出生時に期待できる完全健康状態で生存する年数の期待値。
多国籍企業（TNC）	海外直接投資を通して複数国にわたる生産活動・事業を所有したり支配したりしている企業。

詳細

サブトピック	発展	授業時間
1. 健康		
・ 健康の変化	国スケールとグローバルスケールで、1950年以降の平均寿命の変化に表れた健康の変化について詳しく述べます。所得や生活様式（ライフスタイル）の違いの点から、そのパターンや傾向を説明します。	4時間
・ 健康の測定	平均余命、乳児死亡率（IMR）、乳幼児死亡率、健康調整平均余命（HALE）、カロリー摂取量、安全な水への近接性および保健医療サービスへの近接性を、健康の指標として評価します。	
・ 治療と比べた予防	疾病の治療とは対照的に政策立案者によって比較的重視される予防について、 1つ の国または地域を取り上げ、それを規定する地理的要因について論じます。	
2. 食料		
・ グローバルな食料入手可能性	食料の入手可能性の1つの尺度として、カロリー摂取量のグローバルなパターンを特定します。 栄養不良、一時的飢餓、慢性的飢餓、飢饉を区別します。 食料安全性保障の概念について論じます。	1時間
・ 食料充足地域と不足地域	農業システム、科学的・技術的革新、農業地域の拡大、アグリビジネスの成長といった諸変化が、緑の革命が起こり継続しているいくつかの地域において、どのように食料入手可能量を増加させたかを説明します。 食料不足地域や食料不安地域を生み出す環境的・人口的・政治的・社会的・経済的要因について考察します。	3時間
・ ケーススタディー	最近の飢饉の原因となった様々な要因について考察します。	4時間
・ 生産と市場	食料生産と入手可能性への貿易障壁、農業補助金、2国間・多国間協定、多国籍企業の影響について様々なスケールで考察します。	3時間
・ 不均衡	食料援助、自由貿易、フェアトレードの食料不足緩和における相対的重要性を評価します。	3時間

サブトピック	発展	授業時間
・ 持続可能な農業	エネルギー効率と持続可能産出量の点から持続可能な農業の概念について考察します。 環境への影響の指標としてのフードマイルの概念について考察します。	2時間
3. 疾病		
・ 疾病のグローバルなパターン	豊かな生活をもたらす疾病の世界的な分布を説明します。 貧困をもたらす疾病の世界的な分布を説明します。	2時間
・ 疾病の伝染	移転や拡散による伝播という地理的概念が、病気の蔓延にどのように適用できるかを説明します。病気の蔓延を制限する試みにおける障壁概念の適用について考察します。疾病発生の減少をもたらす要因について詳しく述べます。	4時間
・ 地理的要因とインパクト	2つ の疾病について、発生と蔓延の原因となる地理的要因を調べます。 地域的、国家的、国際的なスケールで、これら2つの疾病の地理的なインパクトを評価します。 これらの疾病の1つについて、ある1つの国または1つの地域で適用されている管理方策を評価します。	4時間

オプションG：都市環境

ここでは、都市を強い社会的相互作用の場として、また、生産・富の生成・消費の集中する場としてみなしています。都市は富と欠乏の多様なパターンを示し、それは結果として対立をもたらす場合もあります。交通機関の進歩は、人口や経済活動の急速な成長と変化をもたらし、都市計画者にとってそれは新たなストレスや課題となっています。

また、このテーマは持続可能性という課題を含んでおり、都市は、環境への影響を最小限にするために管理される必要があるインプットとアウトプットをもつ1つのシステムとみなされています。

このテーマでは、経済発展のレベルの差が全国的にはあるにもかかわらず、都市や町は共通する特徴とプロセスをもつであろうということを認識しています。

ここではすべてのセクションに関して（特に明記しない限り）、発展レベルが対照的な**2つ**の国における都市・大都市地域の**2つ**のケーススタディーを実施するものとします。

定義

テーマ「都市環境」を学習する際に使用される用語の定義は、出典により異なります。混乱を避けるため、以下の定義を用います。これにより生徒の理解の向上が期待されます。

用語	定義
ブラウンフィールドサイト (工場施設・用地跡)	放棄・廃墟もしくは使用されていない工場施設と土地。これらは汚染されているかもしれない一方、再開発の可能性も有している。
反都市化	都市内部地域からニュータウン・住宅地への人口移動であり、都市域限界地や都市・農村境界外縁部、もしくは少し越えた場所に都市通勤者のための町や村が形成される。
エコロジカルフットプリント	人間が必要な物資を手に入れるために必要な土地面積や水の量、現在の技術によって廃棄物を処理するのに必要な土地面積などを理論的に計って表した指標。
再都市化	既存の都市地域の住宅人口密度を増加させるための開発活動。これは、空き地の再開発や住宅改修、新しい業務地区の開発を含む場合もある。
郊外	都市周辺に位置する住宅地域。
郊外化	都市・町の外側への成長であり、周辺の村や農村地域を巻き込む。これは、都市内部から郊外への転出（人口移動）、あるいは、場合によっては農村・都市の内部人口移動の結果である。
持続可能な都市管理方策	現在および将来の都市生活者の生活の質を維持し改善するように務める都市管理アプローチ。管理には、社会的（住居の質、犯罪）、経済的（仕事、所得）、あるいは環境的（空気、水、土地、資源）などの側面が挙げられる。
都市化	都市・町での居住者人口の占める割合が、国内人口の中で増加すること。農村・都市間の人口移動と自然増加の両方が含まれている場合がある。
都市スプロール	計画・制御されていない都市域が周辺郊外に拡大すること。これは郊外化のプロセスと密接に結びついている。

詳細

サブトピック	発展	授業時間
1. 都市の人口		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 都市化 ・ 内部への人口移動 ・ 外部への人口移動 ・ 自然的人口変化 ・ グローバル・メガシティ (巨大都市) 	<p>都市化を定義し、グローバルな成長率とパターンの多様性を説明します。</p> <p>求心的な人口移動（農村から都市への人口移動、ジェントリフィケーション、再都市化／都市再開発）の過程を説明します。</p> <p>遠心的な人口移動（郊外化、反都市化、都市スプロール）の過程を説明します。</p> <p>都市地域における人口密度のパターンへの自然的人口変化の関与について説明します。</p> <p>人口 1000 万人を超えるメガシティ（巨大都市）の数と立地の世界規模的増加を説明します。</p>	2 時間
2. 都市の土地利用		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 住宅地域 	<p>富、民族性（エスニシティ）、家族状態（ライフサイクルの段階）と関連させて住宅地域の立地について説明します。</p> <p>都市の貧困と欠乏のパターンについて考察します（たとえば、スラム街、不法占拠集落（スクォーター集落）、低コスト住宅地、インナーシティ地域）。</p> <p>1980 年代以降の社会的・経済的集団の移動の原因と影響について考察します。</p>	4 時間
<ul style="list-style-type: none"> ・ 経済活動諸区域 	<p>経済活動の空間的パターン、都市・郊外機能の都市計画区域割り、CBD（中心業務地区）の内部構造について説明します。</p> <p>都市地域におけるインフォーマルセクターの特徴と立地について詳しく述べます。</p> <p>ブラウンフィールドサイト（工場施設・用地跡）を含む新しい地点への小売・サービス・製造業の移動の原因と影響について考察します。</p>	4 時間

サブトピック	発展	授業時間
3. 都市のストレス		
・ 都市の微気候	都市微気候への、都市構造や人間活動の影響について、都市ヒートアイランド効果と大気汚染を含めて考察します。	4 時間
・ その他の環境的・社会的ストレス類型	渋滞・過密・騒音・緑地空間の枯渇・廃棄物過剰・劣悪な住居・社会的欠乏（剥奪）・犯罪・不平等を含んだ都市ストレスの徴候について考察します。	4 時間
4. 持続可能な都市		
・ システムとしての都市	次のシステムとしての都市について詳しく述べます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ インプット：エネルギー、水、人、原材料、生産物（製品）、食料（都市農業） ・ アウトプット：固体・液体・気体での廃棄物、騒音、人 インプットが減らされアウトプットが再利用されている持続可能な循環システムと、インプットとアウトプットが制御されていない持続不可能（開放的／線的）な都市システムとを区別します。	2 時間
・ ケーススタディー	少なくとも 2つ の都市を事例として参照し、以下について論じます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 持続可能な都市の管理 ・ 都市のエコロジカルフットプリント 	4 時間
・ 持続可能な方策	次の それぞれ について 1つ のケーススタディーを行い評価します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会的に持続可能な住宅管理方策を1つ ・ 環境的に持続可能な汚染管理方策を1つ ・ 人口転入に起因する急速な都市成長への制御方策を1つ 	6 時間

パート3：HL 発展項目

地球規模での相互作用

原理と概念フレームワーク

このシラバスにおける地球規模の相互作用についての学習は、世界に対する西洋文化の支配・押し付けを伴った直線的なプロセスを強調するグローバル化（地球規模化）に関する従来の学習よりも広い見方をもたらします。このシラバスの文脈では、地球規模での相互作用とは、文化的特性や商品が社会集団によって採用され、変更され、あるいは抵抗されることによって生み出される双方向で複雑なプロセスを示唆しています。このプロセスは不可避なものでもなければ普遍的なものでもありません。

このHL 発展項目のテーマでは、場所間に存在する相違に起因する、地球規模の相互作用や流動、交換に焦点を当てます。それは、HL 学生が問うために、時空間（時間と空間）における変化についての重要で論争的な地理的諸課題を提供します。このシラバスのパートは、以下の表に示されているような地球規模の相互作用に関連する7つのトピックに分けられています。それぞれのトピックには概念的な基礎があり、それらは学習内容を通して発展されるものです。

トピック	トピックの目的	
1. 地球規模の相互作用を測ること	地球規模の相互作用のレベルや速さを特定することによって、このコース（学習課程）への導入を提供する。	トピック1と2では、地球規模の相互作用に関するパターンやプロセスを調べることによって、また、それらを可能にしたテクノロジーを調べることによって、さらなる学習のための基礎を提供する。
2. 変化する空間—縮小する世界	あらゆる形での地球規模の相互作用にとって基礎となる、情報通信テクノロジーや交通の改善について確認する。	

トピック	トピックの目的
3. 経済的な相互作用と流動	トピック3～6では、地球規模での相互作用に関する経済的、環境的、社会文化的、政治的な結果を特定する。これらの学習では、相互作用に関するプロセスと結果に対して代替的（オルタナティブな）観点を提供し、その不可避性について問うものとなっている。これらのトピックでは、グローバル化のプロセスは静態的なものではなく未だ進行しているということを認識することになる。グローバル化は様々な経過や速度で起こっているということ、そして人々はそれを多様なレベルで受け入れ、またそれに関わっているということを考察する。グローバル化は、いくつかの国家または地域では抵抗され拒絶されることもあり、そこでは、人々は地元の独自性や主権が失われることへの抵抗の反作用として地元の権利を再主張することもある。
4. 環境の変化	
5. 社会文化的な交流	
6. 政治的な結果	
7. ローカルなレベルでの地球規模の相互作用	トピック7では、よりローカル（局地的な）なスケールにおいて働いている双方向の地球規模相互作用に対する反応について考察する。地球規模の相互作用は、それを変更させるローカルな障害や抵抗に直面し、異種混成的（ハイブリッド）な結果を生むこともある。このトピックは地元での調査を伴う。

教師へのガイダンス

本HL発展項目の学習におけるトピックの順序は、トピック1と2だけは本コースの導入として教えることを勧めるものの、必須ではありません。時間配分は、それぞれの学習の深まりや求められる強調点に対する大まかな指針となっています。さらに、トピック、概念、内容の間には重なるところがあるということ、そして、本単元の全体的ビジョン（視界）が得られるようにそれらつながりが強調されるべきであることも認識しておく必要があります。この単元は、研究プロジェクト、プレゼンテーション、グループ作業などを含む生徒中心の学習活動を見込んでいます。ケーススタディーと適切な地元事例の活用を通して、すべてのトピックを取り扱い説明しなければなりません。

定義

HL発展項目「地球規模での相互作用」の学習のなかで用いる用語の定義は、出典により異なります。混乱を避けるため、以下の定義を用います。これにより生徒の理解の向上が期待されます。

用語	定義
市民社会	公的な関心事について協議・交渉するために、世帯・民営部門・国家の間の領域で働いている組織あるいは運動集団。市民団体社会は非政府組織（NGO）、地域社会（コミュニティ）のグループ、労働組合、学会、信仰に基づく組織などを含む。

用語	定義
中心と周縁	発展した中心が未発展の周辺によって囲まれているという概念。この概念は様々なスケールに適用することができる。
文化帝国主義	ある国家の文化・言語を、別の国家へと奨励しようとする風習。前者のほうが経済的または軍事的に強力な大国であり、後者のほうがより小さく、豊かでないことが普通である。
フードマイル	生産者から消費者までの食料の移動距離の尺度。実際の距離または輸送中に消費されたエネルギーで測られる。
グローバル化 (地球規模化)	「商品・サービスの国境を越えた取引や国際的資本移動の量や種類の増加と、テクノロジーの一層急速で広範な伝播とを通して世界中に広まった、各国の相互依存の増加」(出典：IMF)
グローバル化指標	A. T. カーニー社の『フォーリン・ポリシー』誌の指標は、12の変数を測定しており、それらは次の4つの“バスケット”へと再区分される。それは、経済的統合、人的接触、テクノロジー結合性、政治的関わり(関与)である。計算されたグローバル化指標によって国家は順位付けされる。 スイス連邦工科大学によって年に1回示されるKOF指標は、グローバル化の主要特性3つ—経済的、政治的、社会的側面を測定しており、それに従って国家は順位付けされる。
グローカリゼーション (グローカル化)	製品またはサービスが、市場としているそれぞれの地方性や文化に明確に適合した場合、グローバル化がより成功を収めやすい、ということを強調するために考案された用語。世界中に増加したマクドナルドのレストランはグローバル化の事例である一方、地元の味付けに合わせようとする試みの中で生じるレストランチェーンのメニュー変更は、グローカリゼーション(グローカル化)の事例である。
GNI	国民総所得(今日では国民総生産-GNPよりも優先して用いられている)。国内で生産される商品やサービスの価値と、他国からの収入を、他国への支出を差し引き総合計したもの。
アウトソーシング	会社内部の機能を取り出し、外部の会社に対価を払ってそれらをゆだねることを表す概念。アウトソーシングは資金の節約や、質の改善、あるいは他の活動のために会社資源を自由にするために用いられる。
時間・空間収束	交通または通信テクノロジーの改善によって、2つの場所の間の移動にかかる時間が減少すること。
多国籍企業(TNC)	海外直接投資を通じて複数国にわたる生産活動・事業を所有したり支配したりしている企業。

詳細

サブトピック	展開	配当時間
1. 地球規模の相互作用を測ること		
<ul style="list-style-type: none"> 地球規模な関与 地球規模での中心と周辺 	<p>地球規模の相互作用の目安としての2つのグローバル化指標、A.T.カーニー指標またはKOF指標のうち、1つについて詳しく述べ評価する。そのグローバル化指標がどのように空間的に表現されるかについて詳しく述べます。</p> <p>相互作用の焦点（ネットワークの中心／結節点）である中核地域と、これらの相互作用による影響を比較的受けない周辺の地域とを地図化することを通して、地球規模の相互作用の空間的パターンについて論じます。</p>	4時間
2. 変化する空間—縮小する世界		
<ul style="list-style-type: none"> 時間と空間の収束、そして距離の摩擦の低下 ネットワークの密度と拡大 	<p>距離の摩擦の低下が、どのようにして時間と空間の収束をもたらすのかを説明します。</p> <p>商品・原材料・人の流動を担う輸送機関（航空、海上、道路、鉄道、パイプライン）の2つについて、スピードと輸送量の相対的な変化について考察します。</p> <p>国家規模あるいは地球規模での連結・結節点の拡大や、その利用量の観点から、交通網・インターネット（コンピューター）網・通信網の変化について考察します。</p> <p>市民団体における情報通信技術（ICT）の役割と、イメージ・考え・情報・金融の伝達や流動について詳しく述べます。</p> <p>2つの国におけるICT採用の速度・水準・パターンの対照的な様子について考察します。</p>	12時間

サブトピック	展開	配当時間
3. 経済的な相互作用と流動		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 金融流動 ・ 労働力流動 ・ 情報流動 	<p>発展した中核地域と周辺地域との間での資本移動における、貸付・債務返済・開発援助・送金・海外直接投資・利益送還の重要性について考察します。</p> <p>政府ならびに世界的な貿易組織や金融機構（WTO、IMF、世界銀行）の資本の移動における影響力について考察します。</p> <p>2つの国々の間における主要な労働力流動の原因と結果について説明します。</p> <p>国際的なアウトソーシングの成長におけるICTの役割について説明します。</p>	8時間
4. 環境の変化		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 食糧原料生産を通じた悪影響 ・ 国境を越える製造やサービスの影響 ・ 国境を越える汚染 ・ 景観の均質化 	<p>農業産業化や生産・消費の国際的变化による自然環境への影響を特定します。</p> <p>ある1つの食糧原料に対する国際的な需要増加による環境的影響について論じます。フードマイレージの概念や、増加する航空貨物輸送量が環境にもたらす影響について考察します。</p> <p>(一部の多国籍企業のように) 汚染をもたらす産業や廃棄物処理（たとえば、ICT、化学物質、核廃棄物）を、環境管理や安全基準の甘い国々へと移転することの理由や影響について論じます。</p> <p>複数国に影響を及ぼしている主要な汚染現象の1つについて詳しく述べ、この汚染現象の影響とそれへの反応について考察します。</p> <p>そのような地球規模の相互作用の結果として、環境に関する認識が高まっていることについて考察します。</p> <p>環境管理の改善を促進しようとするとき、国際的な市民団体組織のが果たす役割について1つの団体について考察します。</p> <p>商業活動ならびに建築とインフラストラクチャーの構造・様式の共通化の影響による画一的な都市景観の進行について説明します。</p>	8時間

サブトピック	展開	配当時間
5. 社会文化的な交流		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 文化伝播：その過程 ・ 消費主義と文化 ・ 社会文化的な統合 	<p>言語、習慣、信念、衣服、イメージ、音楽、食事、テクノロジーなどの観点で、文化的特性について詳しく述べます。労働者、旅行者、商品の国際的な移動に起因する文化的特性の伝播について考察します。</p> <p>消費文化の拡散における多国籍企業とメディアの役割について詳しく述べます。2つの異なるブランド商品を選び、地球的規模における受容の空間的・時間的なパターンについて考察します。</p> <p>1つの国において文化を保護する際の少数離散集団の役割と、ホスト集団による少数派文化の採用について考察します。</p> <p>1つの原集団および遠く離れた集団における文化伝播の影響について、国際的相互作用の影響を通して考察します。</p> <p>国際的相互作用によって文化の均質化と希薄化がもたらされる過程について考察します。文化的帝国主義の概念について定義し、例示します。</p>	8時間
6. 政治的な結果		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 主権の喪失 ・ 反応 	<p>政治的境界の実効性が減少していることと、商品、資本、労働、考え方の流動とのつながりについて論ずるとともに、ヨーロッパ連合（EU）、東南アジア諸国連合（ASEAN）、北米自由貿易協定（NAFTA）、MERCOSUR（南米の共通市場）のような1つの多国間組織の役割について論じます。経済的規模・支配の結果として、権力が国民国家から多国籍企業へとシフトしていることについて論じます。多国籍企業の富と国民国家のそれとを比較します。</p> <p>1つの国における資源と文化の支配を保つための試みとして、ナショナリズムが復活していることについて考察します。</p> <p>反グローバル化の動向について論じます。</p> <p>1つの国に向けた移住を制限しようとする試みについて論じます。</p>	10時間

サブトピック	展開	配当時間
7. ローカルなレベルでの地球規模の相互作用		
<ul style="list-style-type: none"> ・ グローカル化の定義 ・ グローバル化の採用 ・ グローバリゼーションに対するローカルな反応 ・ 代替案 	<p>用語、グローバル化とグローカル化（グローカリゼーション）を区別します。</p> <p>ローカルなスケールでの商業活動がグローバル化されていくまでの範囲について考察します。場所によって採用の基準や速度が異なる理由について考察します。</p> <p>グローバリゼーションに対する市民集団の反応—グローバル化された商品やサービス、文化的特質の需要、適応（グローカル化）、あるいは拒否—について論じます。</p> <p>グローバル化された商品生産の費用や利益と比較しながら、地元商品生産の生産者・消費者・地元経済への費用や利益について評価します。</p> <p>ローカルあるいはグローバルな環境的・社会的・文化的問題に対する意識が高まる中での市民集団の働きについて詳しく述べます。ローカルな経済活動を支援したりローカルな文化価値を高めたりする際の市民集団の働きについて考察する。反グローバリゼーションのグループが主張している見解について論じます。</p> <p>現在もグローバル化されていない集団の生活の質について評価します。</p>	10 時間

ディプロマプログラムにおける評価

概要

評価は、指導および学習と一体化した要素です。DPでは、カリキュラム目標の達成を支援し、生徒に適切な学習を促すことを評価のもっとも重要なねらいとして位置付けています。DPでは、学校外で実施されるIBによる外部評価（external assessment）、および内部評価（internal assessment）の両方が実施されます。外部評価のための提出課題はIB試験官が採点します。一方、内部評価のための評価課題は教師が採点し、IBによるモデレーション（評価の適正化）を受けます。

IBが規定する評価には次の2種類があります。

- ・ 形成的評価（formative assessment）は、「指導」と「学習」の両方に指針を与えます。生徒の理解と能力の発達につながるよう、学びの種類や、生徒の長所と短所といった特徴について、生徒と教師に正確で役立つフィードバックを提供します。また、形成的評価からは、科目のねらいと目標に向けての進歩をモニタリングするための情報が得られるので、指導の質の向上にもつながります。
- ・ 「総括的評価」（summative assessment）は、生徒のこれまでの学習を踏まえて、生徒の到達度を測ることを目的としています。

DPでは、主に履修期間の終了時または終了間近の生徒の到達度を測る総括的評価に重点が置かれています。ただし、評価方法の多くは、指導および学習期間中に形成的に用いることもできます。教師はそうした評価を実施するよう推奨されています。総合的な評価計画は、指導、学習およびカリキュラム編成と一体を成すものです。より詳しくは、IB資料『プログラムの基準と実践要綱』を参照してください。

IBが採用する評価アプローチは、評価規準に準拠した「絶対評価」です。集団規準に準拠した「相対評価」ではありません。この評価アプローチは、生徒の成果を特定の到達の度合いを示す基準に照らし合わせ、そのパフォーマンスを判断するものであり、他の生徒の成果と比較するものではありません。DPにおける評価について、より詳しくはIB資料（英語版）『*Diploma Programme assessment: Principles and practice*（ディプロマプログラムにおける評価：原則と実践）』を参照してください。

OCCでは、DPの科目のコースデザイン、指導、および評価の分野で教師を支援するための多様なリソースを入手できます。また、リソースをIBストア（<http://store.ibo.org>）で購入することもできます。試験問題の見本やマークスキーム（採点基準）、教師用参考資料、科目レポート、評価規準の説明など、その他の資料もOCCで取り扱っています。過去の試験問題やマークスキームはIBストアで購入できます。

評価方法

I Bは複数の方法を用いて、生徒の成果を評価します。

評価規準

評価規準 (assessment criterion) は、オープンエンド型の課題に対して適用されます。各規準は生徒が身に付けることが期待されている特定の能力に重点を置いています。評価目標は「何ができるべきか」を明確にし、評価規準は「どの程度よくできるべきか」を到達の度合いを示す基準に照らし合わせて測ります。評価規準を採用することで、個々の様々な解答の違いを識別することが可能となり、多様な解答を奨励することにつながります。各規準には、どのような基準を満たすと特定のレベルに到達していると判断されるのかが詳細に説明されています。その説明は到達レベル別に段階的に並べられ、レベルごとに1つまたは複数の点数が設けられています。また、採点ではベストフィット (適合) モデルを用いて、各規準を個別に適用します。何点かその規準の満点となるかは規準の重要度に応じて異なる場合があります。各規準での得点を合計したものを、その課題に対する総合点とします。

マークバンド (採点基準表)

マークバンド (採点基準表) は、求められる学習成果の基準を一覧にまとめた表です。教師はマークバンドに照らし合わせて、生徒の到達度を判断します。規準ごとに、到達レベルに沿って段階的に到達の度合いを示す基準が並べられています。生徒の学習成果の違いを識別するために、各レベルの点数には幅をもたせてあります。個々の学習成果物にどの点数を付けるかを確定するには、ベストフィット (適合) アプローチを用います。

マークスキーム (採点基準)

この用語は特定の試験問題のために用意された分析的マークスキーム (採点基準) のことを指します。分析的マークスキームは、生徒の最終的な解答や、その他特定の種類の答案を要求する試験問題のために作成されます。これらは、各設問に対する総合点を生徒の解答の異なる部分にどのように配分するかについて試験官に詳細な指示を与えるものです。このマークスキームには、試験問題の解答で求められる内容や、評価規準をどのように適用するかについての手引きとなる採点のための注意事項などが含まれます。

評価の概要—標準レベル（SL）

2011年 第1回試験

評価構成	配分
<p>外部評価（2時間 50分）</p> <p>試験問題1（1時間 30分） シラバスの内容：コアテーマ 評価目標1～4 セクションA：生徒はすべての求答形式問題に解答します。データを含む設問もあります。（45点） セクションB：生徒は文章形式の1問に解答します。（15点） セクションAとBは、SLとHLの両方の評価に共通しています。（60点）</p> <p>試験問題2（1時間 20分） シラバスの内容：オプション・テーマ2問 評価目標1～4 生徒は、違うオプション・テーマから1つずつ選んだ2題の、学習資料に基づいた質問に解答します。テーマごとに2つの設問選択肢があります。（設問につき20点） いくつかの学習資料はリソースブックレットに含まれています。 この試験問題は、SLとHLの両方の評価に共通しています。（40点）</p>	<p>75%</p> <p>40%</p> <p>35%</p>
<p>内部評価（20時間） この内容は内部で教師に評価を受け、コースの終わりに外部的にIBによるモデレーション（評価の適正化）を受けます。 シラバスの内容：評価目標1～4からのトピック選択 フィールドワークに基づくレポート語数制限2500語（日本語の場合は5000字） （30点）</p>	<p>25%</p>

評価の概要—上級レベル（HL）

2011年 第1回試験

評価構成	配分
<p>外部評価（4時間30分）</p> <p>試験問題1（1時間30分） シラバスの内容：コアテーマ 評価目標1～4 セクションA：生徒はすべての求答形式問題に解答します。データが含む設問もあります。（45点） セクションB：生徒は文章形式の1問に解答します。（15点） セクションAとBは、SLとHLの両方の評価に共通しています。 （60点）</p> <p>試験問題2（2時間） シラバスの内容：オプション・テーマ3問 評価目標1～4 生徒は、違うオプション・テーマから1つずつ選んだ3題の、学習資料に基づいた質問に解答します。 テーマごとに2つの設問選択肢があります。（設問につき20点） いくつかの学習資料はリソースブックレットに含まれています。 この試験問題は、SLとHLの両方の評価に共通しています。 （60点）</p> <p>試験問題3（1時間） シラバスの内容：HL（上級レベル）発展項目 評価目標1～4 生徒は小論文形式の3問のうち1つに解答します。 （25点）</p>	<p>80%</p> <p>25%</p> <p>35%</p> <p>20%</p>
<p>内部評価（20時間） この内容は内部で教師に評価を受け、コースの終わりに外部的にIBによるモデレーション（評価の適正化）を受けます。 シラバスの内容：評価目標1-4からのトピック選択 フィールドワークに基づくレポート語数制限2500語（日本語の場合は5000字） （30点）</p>	<p>20%</p>

外部評価

外部評価では、以下の2種類の評価手法が用いられます。

- ・ 各試験問題用の詳細なマークスキーム（採点基準）
- ・ マークバンド（採点基準表）

マークバンド（採点基準表）は、本資料に記載されています。

3つの試験問題それぞれに準拠してマークバンド（採点基準表）とマークスキーム（採点基準）が準拠して作成されます。マークバンド（採点基準表）は、「地理」のために設定された評価目標、および「個人と社会」（グループ3）の成績の評価規準の説明と連動しています。マークスキーム（採点基準）は試験ごとにその試験に準拠して作成されます。

論文

地理の外部評価は、SLでは2問、HLでは3問出題されます。試験は外部で作成され、モデレーション（適正化）が行われます。試験は、地理の評価目標に沿って生徒が能力を示し、また、地理スキル、コアテーマ、オプション・テーマといった地理シラバスに関して、さらにHLではHL発展項目に関して能力を示すことができるようデザインされています。外部評価は、SLでは最終評価の75%、HLでは80%の割合を占めます。

地図と図表の使用

生徒は、適切と思われるところでは必ず、地図、スケッチ、表、図表を取り入れることが期待されます。それらは、丁寧に大きく、正確に書くことが求められます。

試験ではメートル法の地図だけ使用されます。

注釈入り地図

試験問題では、頻繁に「注釈入り地図」を参照にします。「注釈入り地図」には、生徒が地図の中の適切な場所に注釈を書き込むことが求められています。注釈は地図の下の関係ない部分に書いてはいけません。

注釈入り図表

試験問題は頻繁に「注釈入り地図」を組み込む必要性に言及しています。それらの図表には、主要点を説明し、推敲し、強調するために図表そのものに注釈をいくつか書き入れる必要があります。「高い出生率」などのコメントは、図表の適切な場所に直接書き加えると最適です。そのためにも、図表は大きめが良いでしょう。

ケーススタディーと事例の使用

ケーススタディーとは、議論や多方面にわたるアプローチのための、ある場所に関して詳細に述べる事例のことです。生徒は試験問題にケーススタディーや事例を適切に使いながら答えることが期待されており、場合によってはそれらの事例で異なる開発レベルを対照的に示すことが求められます。それぞれのケーススタディーまたは事例は、その国または地域の社会的、経済的、または政治的な発展のレベルにおいて何か異なる点を挙げている必要があります、その比較が行われている必要があります。理想的には、ケーススタディーはその生徒が生まれてから起こった出来事を選択すべきです。詳しくは「地理教育へのアプローチ」の「指導について」の項を参照してください。事例は、その概念とケーススタディーとの関わりを適切に示すために使われなくてはなりません。事例を使用する場合、生徒は1つの単語による解答ではなく、それ以上に発展させた解答をしなくてはなりません。

生徒は、適切な場合試験中に、地図、図表、表、スケッチ、ケーススタディー、事例を用いることが期待されており、教師はその件についてアドバイスをするように奨励されています。試験の解答用紙にもこの点についての指示が載っています。

生徒が特定の知識と理解を示すために、ケーススタディーと事例の使用が必須であると明記してある設問もあります。

電卓の使用

地理試験では電卓は禁止されています。

シラバスの詳細へのリンク

このシラバスの「はじめに」から「コアテーマ」まで、あるいは「はじめに」から「オプション・テーマ」および「HL発展項目」からの引用は、試験に出題される可能性があります。ただし設問はシラバスの表の2つの主要欄（トピックと発展）からのみ出題されます。

外部評価の詳細－S L

試験問題 1 S L

時間：1 時間30分

配点比率40%

この試験問題はS LとH Lに共通しており、AとBの2つのセクションに分けられています。コアテーマである「パターンと変化」に関係した下記の目標に関する生徒の能力を評価するためのものです。

- ・ 知識と理解（評価目標 1）セクションAおよびB
- ・ 応用と分析（評価目標 2）セクションAおよびB
- ・ 統合と評価（評価目標 3）セクションB
- ・ 適切な用語を使用する能力と、必要に応じてセクションAおよびBの解答できさまざまな技能を発揮する能力、そしてセクションBではよく構成された資料を書く（評価目標 4）能力。

各セクションの設問には、表、図、地図などの学習資料が含まれることがあります。

セクションA

- ・ コアテーマの4つの各トピックに関する必須の短い記述式の設問が4題出題されます。生徒は4問すべての設問に解答しなくてはなりません。
- ・ 設問は、部分に分かれています。最初の部分では、「知識と理解」、次の部分は「知識、理解、応用、分析」が求められています。各設問で用いられる指示用語は、解答に求められている深度を示しています。
- ・ 各設問は10～12点満点で、分割されています。
- ・ このセクションの最高得点は45点です。
- ・ 解答は、その試験問題の設問のために用意された「分析的マークスキーム」（要求される解答内容や、採点基準の詳細を示したもの）を用いて評価されます。

セクションB

- ・ 3つの選択肢から1つの論文解答の設問に答える必要があります。
- ・ 設問では学習内容を幅広く扱うことが求められ、コアテーマの中の複数のトピックを合わせた内容が出題される場合もあります。
- ・ 設問に解答するには、知識と理解、応用と分析、統合と評価が必要とされます。
- ・ 各設問で用いられる指示用語は、解答に求められている深度を示しています。
- ・ このセクションの最高得点は15点です。
- ・ 採点は、その試験問題に合わせた分析的マークスキームと、試験問題1セクションBマークバンドを使用して行われます。

この試験問題1は全体で60点満点です。

試験問題 2 S L

時間：1時間20分

配点比率35%

この試験問題はS LとH Lに共通しており、7つのオプション・テーマに関係した下記の目標に関する生徒の能力を評価するためのものです。

- ・ 知識と理解（評価目標 1）
- ・ 応用と分析（評価目標 2）
- ・ 統合と評価（評価目標 3）
- ・ 適切な用語を使用する能力と、解答でさまざまな技能を発揮する能力、そしてよく構成された資料を書く（評価目標 4）能力。

7つの各オプション・テーマには、2つの選択設問があります。どちらの設問も構造化されており、20点満点です。少なくとも2つの問いから成る前半の部分は、合計10点満点ですが、その難度により、それぞれ配点は違います。後半部分には常に10点が配点されます。前半の設問はお互いに関連しており、知識と理解、応用と分析について評価します。後半の設問は前半の設問との関連はあるかもしれないし、ないかもしれませんが、テーマの枠を超えた内容となり、統合と評価の能力に関して評価します。長文の記述が求められます。

各設問で用いられる指示用語は、解答に求められている深度を示しています。

試験問題は、このシラバスに記載されている7つのオプション・テーマと同じ順番で設定されています。各テーマのタイトルは試験問題に書かれており、設問には1から14まで番号が付けられています。（各テーマに2問出題）たとえば、「オプションC：極限環境」に関する質問は、「オプション・テーマC：極限環境、設問5、設問6」として表示されています。

- ・ S Lの生徒はオプション・テーマのうち2つから各1設問ずつに答え、全部で2つの設問に解答しなくてはなりません。
- ・ 生徒は1つのテーマから1つの設問を選び、同じテーマから設問を2つ選ぶことは**できません**。
- ・ 少なくとも、各テーマに属する2つの設問のうち1つは、学習資料を含みます。これには地図（地形図を含む）、グラフ、画像、写真、衛星画像、図表、表が含まれているかもしれませんが、漫画やテキストからの抽出物は含まれません。
- ・ 適切な場合、学習資料はリソースブックレットに記載されており、カラフルな素材も含んでいます。
- ・ 各設問の最高得点は20点です。
- ・ 解答は、その試験問題に合わせた分析的マークスキーム（要求される回答内容や、採点規準の詳細を示したもの）を用いて評価されます。各設問の最後の部分は10点に値し、分析的マークスキームと、試験問題2のマークバンド（採点基準表）を使用して採点されます。

全体としては、S Lの生徒用の試験問題2の最高点は40点で、H Lの生徒の最高得点は60点です。

外部評価のマークバンド (採点基準表) — SL・HL

試験問題 1 と試験問題 2 マークバンド (採点基準表)

これらのマークバンドは試験問題 1 と試験問題 2 の SL と HL のレベルで使われます。

レベルの説明	AO1 評価目標 1 知識/理解	AO2 評価目標 2 応用/分析	AO3 評価目標 3 統合/評価	AO4 評価目標 4 スキル	試験問題 1 セクション B 得点 0～15 点	試験問題 2 得点 0～10 点
A	内容に関係がある知識がない。事例とケーススタディーがない。	応用をしている証拠がない。設問の解釈が完全に間違っており、設問の要求をほとんど理解していない。	評価なし	すべて不適切である。	0	0
B	表面的か、わずかしか知識と理解がない。例とケーススタディーが全くない、または、関係のない例とケーススタディーしかない。	ほとんど応用されていない。設問の重要な要素には触れていない。	評価なし	非常に低いレベルである。学習資料がほとんど整理されていない。ほとんど関係ある用語が使われていない。	1～3	1～2
C	多少知識と理解が見られるが、削除されている部分がある。事例とケーススタディーは含まれているが、詳細に欠ける。	ほとんど応用をしていない。設問に対しては部分的にしか触れていない。	評価なし	ほとんど、または、全く地図または図表を使っておらず、スキルと資料を整理する力がほとんど見られない。用語を切り切れていない。	4～6	3～4

	AO1 評価目標1	AO2 評価目標2	AO3 評価目標3	AO4 評価目標4	試験問題1 セクションB	試験問題2
レベルの 説明	知識／理解	応用／分析	統合／評価	スキル	得点 0～15点	得点 0～10点
D	関連のある知識と理解が見られるが、欠けている部分もある。事例とケーススタディは含まれており、しばしば一般化されている部分がある。	いくぶんか応用をしようとしている。解答は良いが、まだ完全には発達しておらず、説明しがちである。	評価なし、または、実証されていない評価	基本的な地図か図表を使用している。資料が整理されており、順序良くまとめられている様子が見られる。	7～9	5～6
E	一般的に正確な知識と理解があるが、少々削除してしまっている部分がある。事例とケーススタディは良く選択されていて、しばしば一般化されている部分がある。	適切な応用がされている。設問の要点にほとんど触れた解答をすることができきる。	その問題を評価しようとする試みは少々始めているが、バランスがとれていない。	そこそこのレベルの地図か図表を使用している。資料は整理されている。ほとんど適切に用語を使用している。	10～12	7～8
F	正確で特定な詳細に至る知識と理解が見られる。事例とケーススタディがよく選択されており、開発されている。	詳しい応用ができている。設問の要点のほとんど、また、すべてに触れた解答をすることができる。	よい試みで、よくバランスがとれている。	適切できちんとした地図と図表を用いている。よく整理されている解答である。用語も適切である。	13～15	9～10

外部評価の詳細－H L

H Lの外部評価はS Lと共通していますが、下記の点で違います。

試験問題 1

時間：1時間30分

配点比率25%

詳しくは「外部評価の詳細－S L」セクションを参照してください。この試験問題ではH Lの生徒にもS Lの生徒に求めた同じ内容を求めますが、配点は最終評価の25%です。

試験問題 2

時間：2時間

配点比率35%

H Lの生徒は**3**つのオプション・テーマのうち1つの設問に答え、全部で3つの設問に解答しなくてはなりません。

さらに詳しい情報は「外部評価の詳細－S L」セクションを参照してください。

試験問題 3

時間：1時間

配点比率20%

この試験問題の目的は、H Lの生徒がH L発展項目の「地球規模での相互作用」と関係した下記の能力を達成しているかどうかを評価することです。

- ・ 知識と理解（評価目標1）
- ・ 応用と分析（評価目標2）
- ・ 統合と評価（評価目標3）
- ・ 適切な用語を使用する能力と、解答でさまざまな技能を発揮する能力、そしてよく構成された資料を書く（評価目標4）能力。

各設問はH L発展項目の7つのトピックのなかから、知識と理解、応用と分析、統合と評価の能力を測るために出題されます。トピックの枠を外した、横断的な出題もあるかもしれません。コアテーマの知識があることが前提として出題されます。生徒は3つの選択設問のなかから1つの設問に小論文形式で答えます。

- ・ 各設問はパート（a）とパート（b）の2部に分かれています。配点はパート（a）10点、パート（b）15点です。
- ・ パート（a）の設問は、知識と理解、応用と分析の能力を測るために出題されます。
- ・ パート（b）の設問は、統合と評価の能力、そして記述力、知識と理解を測るために出題されます。生徒は、機会があるごとにトピックとサブ・トピックとのつながりや関連性を示したり、よく構成された解答を書くことで統合と評価の能力を示すことが期待されています。

- ・ 生徒たちには、解答を書き始める前に計画を立てることが奨励されています。
- ・ 設問に使用されている指示用語は求められる解答の深度を示しています。
- ・ 試験問題の最高得点は25点です。
- ・ パート（a）とパート（b）の解答は、その試験問題に合わせた分析的マークスキームと、試験問題3パート（a）とパート（b）のマークバンドを使用して採点されます。

外部評価のマークバンド（採点基準表）—H L

試験問題1と試験問題2マークバンド（採点基準表）

試験問題1と2のマークバンドは「外部評価のマークバンド（採点基準表）—S L・H L」を参照してください。

試験問題3マークバンド（採点基準表）

パート（a）

レベルの説明	知識／理解 A O 1	応用／分析 A O 2	スキル A O 4	得点 0～10点
A	まったく知識がない、または不適切である。	設問の解釈が完全に間違っている、または、省略されている。	すべて不適切である。	0
B	少しの知識および／または理解がある。	設問の重要な要素には言及していない。	題材を整理しようと試みた形跡がほとんど認められない。	1～3
C	多少の知識および／または理解がある。	設問の要求に対して、部分的に言及している。	構成や整理を試みた形跡がいくらか見受けられる。	4～6
D	概ね正しい知識および理解がある。	設問の要点にはほとんど触れて構成された解答である。	適切に構成されており、概ね適切な用語を使用している。	7～8
E	正確で適切な知識および理解がある。	設問の要点のほとんど、または、すべてに言及した解答で、よく構成されている。	用語を適切に使っており、よく構成された解答である。	9～10

パート (b)

レベルの 説明	知識／理解 A O 1	応用／分析 A O 2	統合／評価 A O 3	スキル A O 4	得点 0～15点
A	まったく知識がない、または不適切である。	設問の解釈が完全に間違っている、または、省略されている。	統合／評価がまったくない。	すべて不適切である。	0
B	少しの知識および／または理解がある。	設問の重要な要素には言及していない。	統合／評価をしようと試みた形跡がほとんど認められない。	題材を整理しようとした形跡がほとんど認められない。	1～4
C	多少の知識および／または理解がある。	設問の要求に対して、部分的に言及している。	基本的な統合／基本的または持続性のない評価をしている。	構成や整理を試みた形跡がいくらか見受けられる。	5～8
D	概ね正しい知識および理解がある。	設問の要点にはほとんど触れて構成された解答である。	統合は見受けられるが部分的に発展が不足している。／評価は見られるが、部分的に持続性がない。	適切に構成されており、概ね適切な用語を使用している。	9～12
E	正確で適切な知識および理解がある。	設問の要点のほとんど、または、すべてに言及した解答で、よく構成されている。	明確に発展、統合されている／明確で持続性のある評価がなされている。	適切な用語を使った、よく構成された解答である。	13～15

内部評価

内部評価の目的

内部評価は授業と一体を成す要素であり、SLとHLのいずれのレベルの生徒も必ず取り組まなければなりません。内部評価課題では、筆記試験でのように時間の制限やその他の制約に左右されることなく、それぞれの興味を追い求めつつ、知識とスキルの活用を示すことができます。内部評価はできる限り通常の授業に織り込まれるべきであり、履修期間の終了後に別途実施されるべきではありません。

なお、内部評価の要件はSLとHLで共通です。与えられた時間は20時間で、点数配分はSLでは25%、HLで20%です。生徒はフィールドワークを実行して直接的情報を収集し、それをもとにレポートを作成することが求められています。

指導と「生徒本人が取り組んだものであること」の認証

内部評価のために提出されるSLとHLのレポートは、生徒自身で作成したものでなくってはいけません。ただし、学習成果物が「生徒本人が取り組んだものである」ことは、生徒自身がタイトルやトピックを決め、教師からの支援を一切受けずに、独自に内部評価課題に取り組まなければならないということではありません。教師は、生徒が内部評価課題を計画する段階と取り組む段階で重要な役割を果たします。生徒に以下の点について確実に理解させるのは、教師の責任です。

- ・ 内部評価の対象となる課題についての要件—情報収集のメソッド、グループプロジェクトに関する規制、レポートの形式などを含む。
- ・ 倫理的なガイドラインとこのシラバスに内部評価要件の下で与えられるリスク評価に関するアドバイス
- ・ 評価規準—評価課題を通じて、生徒は与えられた評価規準に効果的に取り組むべきであること

教師と生徒は内部評価課題について話し合わなければなりません。生徒がアドバイスや情報を得るために率先して教師と話し合うよう促してください。また、生徒が指導を求めたことで減点してはなりません。ただし、課題を完成させるにあたって教師から相当量の助けを要した場合には、IB資料『DP手順ハンドブック』に記載されている該当する書類にその旨を記入するようにしてください。

教師には、学問的誠実性に関連する概念、特に知的財産と生徒本人が課題に取り組むことについての基本的な意味および重要性をすべての生徒に確実に理解させる責任がありま

す。また、内部評価課題が完全に生徒自身によるものでなければならないことを生徒に対して明確に説明しなければなりません。

学習プロセスの一環として、生徒は内部評価課題の第1稿を作成した後、教師からアドバイスを受けることができます。ただし、ここで与えられるアドバイスは改善を目的としており、教師が第1稿に注釈したり、編集を加えたりすることは認められません。なお、この第1稿の次に教師に提出される課題が最終稿となります。

モデレーション（評価の適正化）、または評価のためにIBに提出されるすべての学習成果物は、本当に生徒本人が取り組んだものであることを教師が認証しなければなりません。また、規則違反の事実またはその疑いがあることはありません。各生徒は学習成果物が自分自身のものであること、またそれが最終版であることを正式に認め、内部評価課題のカバーシートに署名をします。なお、署名済みのカバーシートと内部評価課題の最終版を正式に教師（もしくはコーディネーター）に提出した後は、これを撤回することはできません。

生徒本人が取り組んだものであるかどうかは、生徒と課題の内容について議論することと、次のいずれか（または2項目以上）を精査することを通じて確認します。

- ・ 生徒の最初の案
- ・ 記述課題の1回目の草稿
- ・ 引用・参考文献
- ・ 生徒自身が書いたものであることが確認されている他の課題との文体の比較

「生徒本人が取り組んだものであること」の認証は、IB試験官によるモデレーション（評価の適正化）のために提出されるサンプルの課題だけでなく、すべての生徒の課題に必要になります。教師と生徒がカバーシートに署名をした場合でも、その成果物が生徒本人が取り組んだものでない可能性がある趣旨のコメントがある場合には、生徒はその課題の評価を受ける資格を失います。

詳細については、IB資料『学問的誠実性』と同『一般規則：ディプロマプログラム』を参照してください。

同一の課題を、内部評価と「課題論文」（EE）の両方の要件を満たすものとして重複して提出することはできません。

グループワーク

下記のとおり、生徒がグループワークを実施することがありますが、レポートはそれぞれの生徒が個人で作成したものでなくてはなりません。

フィールドワークのトピック、フィールドワーク調査課題、情報収集のメソッドは、教師が選ぶこともできますし、クラス全体、小グループ、または個人で選択することもできます。また、調査の初期段階では、生徒はグループでフィールドワーク情報を収集し、その調査結果を共有し、最適な発表メソッドを決めて共同作業をすることができます。

ひとたび調査が完了し、必要なフィールドワーク情報といくつかの発表メソッドが検討されれば、生徒たちの作業の軸足は個人ワークへと移っていきます。レポート作成、方法の正当化、分析、そして、結論はすべて生徒一人ひとりによる学習成果でなくてはなりません。これらの要素は、規準D～Fで評価され、15点満点です。個々の学生による発表の質についても規準Gにより評価され、4点満点です。

時間配分

内部評価は地理コースにとって不可欠なもので、S Lにおける最終評価の25%、HLにおける最終評価の20%を占めます。この配点比率を踏まえて、課題に取り組むのに必要な知識、スキル、理解の指導に当てる時間、および課題を進めるために必要な時間を配分する必要があります。

S L・HLともに内部評価課題には、合計約20時間を割り当てることが推奨されています。これには下記の内容を含める必要があります。

- ・ 教師が生徒に内部評価の要件を説明する時間
- ・ 地理コースの倫理的なガイドラインとリスク評価に関するアドバイスを説明する時間
- ・ 調査地での時間
- ・ 授業中に生徒が内部評価課題に取り組む時間
- ・ 教師と各生徒が話し合う時間
- ・ 課題に目を通し、進行状況を確認する時間、生徒本人が取り組んだ課題であるかどうかをチェックする時間

要件と推奨事項

理論的根拠

内部評価用のフィールドワークの目的は、クラスで学んだ主要な地理的概念とスキルを増幅、強化、拡張することです。フィールドワークはコースのある特定の勉強を豊かにします。それにより、生徒は知識、理解、認識がさらに高まり、学習がさらに興味深く、関連性があるものになります。実践的な作業を通して学習する機会を提供し、協力、組織、調査、発表のスキルを育みます。またリーダーシップを育む機会を提示します。

フィールドワークにはその現場での一連の直接的情報とその処理、そして適切なスキルを使った情報の掲示と分析が関わってきます。その情報資料はレポートにまとめて提出します。

フィールドワーク活動は、「地理的スキル」セクションの内部評価のためのスキルの多くを実践する機会を与え、選択したフィールドワーク調査課題に取り組むための的確なスキルを育みます。

フィールドワーク調査の選択

スケールと調査地

さまざまな種類の調査をすることが可能で、選択は地域の環境で得られる機会に依存します。調査は実行可能で行きやすい場所で行う必要はありません。調査の対象となるトピックは**地域スケールでなくてはいけません**が、学校の近くである必要はありません。必要ならば、事業や安全性の心配がある場合、たとえば、学校自体をフィールドワークの調査地とすることができ、いくつかのフィールドワークの可能性を提供することができます。

リスク評価

学校は、適切な場合、標準的な規則を参考にして、フィールドワークのための健康安全ガイドライン（リスク評価）に従うように助言されています。各学校は、生徒の安全と健康に関して最終的な責任があります。

倫理のガイドライン

生徒は、フィールドワークの情報収集に関する倫理面を考慮に入れなくてはなりません。たとえば、インタビュー中に相手の考えを尊重すること、環境を尊重すること、情報の信頼性などです。

さらに詳しい情報は、ウェブサイトのカリキュラムセンターに掲載されているIB資料ポスター『倫理の実践（Ethical practice）』を参照してください。

内部評価への評価規準の適用

内部評価には、多くの評価規準が設けられています。各評価規準には、学習成果物が特定のレベルに到達している場合にその成果物に見られる特徴を記述した「レベルの説明」と、それに対応する点数が明示されています。「レベルの説明」では、基本的に学習の成果として捉えられる肯定的な側面を判断基準として取り上げています。

教師がSLおよびHLの内部評価課題を採点する際は、評価規準の「レベルの説明」に照らし合わせて判断しなければなりません。

- ・ 評価規準は、SL・HL共通です。
- ・ ベストフィット（適合）モデルの考え方にに基づき、「レベルの説明」から、生徒の到達レベルをもっとも適切に示す説明を見つけます。学習成果物に見られる到達度が規準に示されている要素によって異なる場合、補正するというのがベストフィット（適合）アプローチの考え方です。与えられる点数は、規準に照らし合わせた場合に、到達レベルのバランスをもっとも公正に反映するものでなければなりません。「レベルの説明」に挙げられている要素をすべて満たさなければ、その点数が得られないということではありません。

- ・ 生徒の学習成果物を評価する際、教師は、評価規準で学習成果物のレベルをもっとも的確に示している説明と一致するまで、各レベルの説明を読まなければなりません。学習成果物が2つの説明のちょうど中間にあたると見られる場合、両方の説明を読み直し、生徒の学習成果物をより適切に示すほうを選ばなければなりません。
- ・ 1つのレベルに複数の点数が割り当てられている場合、生徒の学習成果物について、説明内容を達成している度合いが大きければ（学習成果物はその上のレベルに到達しそうな場合）、高いほうの点数を付けます。説明内容を達成している度合いが小さければ（その下のレベルに近い場合）、低いほうの点数を付けます。
- ・ 整数のみを用います。分数や小数を用いた点は認められません。
- ・ 教師は合格・不合格の線引きをするような考え方をせずに、各評価規準において、学習成果物をもっとも適切に表すレベルを特定することに専念しなければなりません。
- ・ 「レベルの説明」にある最上位レベルは、欠点のない完璧な学習成果を意味するものではありません。その学習成果物が説明内容に当てはまるのであれば、教師は最高点・最低点を付けることを躊躇してはいけません。
- ・ 1つの規準において到達レベルの高かった生徒が、他の規準においても到達レベルが高いとは限りません。同様に、1つの規準において到達レベルの低かった生徒が、他の規準においても到達レベルが低いとは限りません。教師は、生徒の全体的な評価からある特定の点数をその生徒の得点として想定するべきではありません。
- ・ 評価規準を生徒に示すことが推奨されています。

内部評価の詳細— S L / H L

時間：20時間

配点比率25%（S L）、20%（H L）

シラバスとの関係

HLとSLの生徒のフィールドワークはサブトピックの資料に関係すべきであるか、または、シラバスに記載されている発展コラム（コアテーマ、オプショナル・テーマ、HL発展項目）に関係していなくてはいけません。2つ以上のトピックとテーマを合わせても構いません。

フィールドワークは**地域**スケールで、**直接的**情報の収集に従事してはいけません。選択したトピックは物理的な物や人間に関わるものでも可能であり、または、両方のアプローチを統合しても構いません。

グローバルな問題は、地域レベルとして適応させる場合以外は不適切です。たとえば、コアのテーマのトピック4「資源消費のパターン」は、地域スケールに適用されています。

コアテーマ、オプション・テーマB、C、D、E、FとHL発展項目は、フィールドワークの調査には不適切な**可能性が高い**です。

コースのある部分	トピック
コアテーマ	トピック1 人口の移り変わり トピック2 富と開発における不均衡
オプション・テーマ	オプションB 海洋と海岸線 トピック1 海洋への導入 トピック2 海洋と気候 トピック4 海洋における地政学 オプションC 極限環境 トピック1 厳しい環境 オプションD 危険と災害—リスク評価と対応 トピック1 危険の特徴 オプションE 余暇活動、スポーツ、観光 トピック2 国際規模での余暇活動：観光 オプションF 食料と健康の地理 トピック2 食料：サブトピック—グローバルな食料入手可能性、生産と市場 トピック3 疾病：サブトピック—疾病のグローバルなパターン
HL 発展項目—地球規模での相互作用	トピック7 「ローカルなレベルでの地球規模の相互作用」を除くトピックはすべて不適切です。

収集する情報の種類

直接的情報

この情報は、フィールドワークで集められた生徒自身の観察の記録と測定からのものでなければなりません。この「直接的情報」が、各調査の基礎を形成します。フィールドワークは、適切な解釈と分析を可能にするために十分な情報を提供しなければなりません。

フィールドワーク調査で収集される直接的情報には、**定量的情報**も**定性的情報**も含まれる場合があります。収集される情報の種類は、調査の目的とフィールドワーク調査課題の質問によって決定する必要があります。

定量的情報は、測定を通して収集され、統計やその他の技術を使用して処理されることがあります。

定性的情報は、観察または主観により集められ、測定は関係しません。それは必要に応じて数量化し、画像や文章で表示することもできます。（定性的情報を文章のみで表示する場合、生徒は語数（字数）制限に留意すべきです）。

定性的情報は基本的に分析と結論に必要な**十分な**情報を提供しなくてはなりません。

間接的情報

このリサーチには、書面に落とされた情報、統計情報、図表にすでにされている情報源を集めることが関与しています。間接的情報は直接的情報を補充するものとして使うことが可能ですが、それが調査の大部分を占めることはできません。

すべての間接的情報は、ハーバード方式などの一般的な著者名・発行年方式を使い、参照する必要があります。これには使用したウェブサイトのタイトル、URLアドレス、日付を含むインターネットからの情報も含まれます。すべての間接的情報はその出典を参照する必要があります。脚注は資料を参照するために使用することもでき、その脚注の語数（字数）（15語（日本語の場合は30字）まで）は、解答の語数（字数）に含まれません。

レポート

生徒は自分の調査をまとめた**1つ**のレポートを作成しなくてはなりません。語数（字数）制限は2500語（日本語の場合は5000字）です。

字数の制限

以下の項目は字数には含まれません。

- ・ タイトルページ
- ・ 謝辞
- ・ 目次のページ
- ・ タイトルとサブタイトル
- ・ 参考文献
- ・ 脚注－1つにつき最大15語（日本語の場合は30字）まで
- ・ 地図上の使用符号の説明とその記号
- ・ 図表に付ける名称－10語（日本語の場合は20字）以内
- ・ 表－統計や数値データ、カテゴリー、分類、またはグループ名
- ・ 計算
- ・ 付録－データおよび計算を含む部分のみ

本文の文章は、すべて字数に換算されます。その中には、研究課題、分析、結論、評価、そして、10語（日本語の場合は20字）以上のすべての注釈と15語（日本語の場合は30字）以上のすべての脚注を含みます。

字数が制限を超えてしまう場合、モデレーターはそのレポートを読むことを中止することになっており、生徒は規準Gの点数を失うだけでなく、規準EとFからも点数を失う可能性があります。

重点

レポートの重点は**分析的**であることであり、情報収集、処理、そして分析に使用したメソッドに焦点を当てることも忘れてはいけません。純粹に記述的なレポート、および／または、長い理論的な導入は避けなければなりません。

形式

生徒は以下のガイドラインの形式に沿ってレポートを作成し、規準の要件を満たすレポートにしなくてはなりません。

レポート・セクション	規準	30 から 割り当てられた点数	語数制限の目安 2500 単語 (日本語の場合は 5000 字)
フィールドワーク調査課題 および地理的概念	A	3	300 (600)
調査メソッド	B	3	300 (600)
収集した情報の質と処理、 および、分析レポート (統 合された方法)	C および D	5 + 10	1350 (2700)
結論	E	2	200 (400)
評価	F	3	300 (600)
形式的要件	G	4	非該当
合計		30	2450 (4900)

単語数（文字数）制限についての内訳の目安は、あくまでも**目安**であり、規定ではないことに留意してください。それぞれのセクションの文章の長さにはばらつきがあっても 2500 語（日本語の場合は 5000 字）の制限数内で解答している場合は減点されません。

レポート本文のそれぞれのセクションに語数（文字数）を書いて、レポートの表紙にその合計を書けば役立つでしょう。

以下の詳細には、各セクションの要件、各セクションがどのように評価規準に関連している必要があるか、そして、点数がどのように配分されているかが説明されています。

A フィールドワーク調査課題および地理的概念

フィールドワーク調査課題（1つの明確な問い）は、フィールドワーク調査の指針となるものです。それは、焦点をしっかりと絞った適切な「質問」のかたちをとっていなければならない、その質問は、現場から得た直接的情報を通して解答を得られるものでなければなりません。（適切な範囲で、生徒はこの質問への答えを簡単に予測したり、推測したりすることができます。この予測を仮説というかたちで提示することもできます。）

なぜフィールドワークを行うのか、また、それをどこで実践するのかを説明して、地理的概念について**手短**に触れる必要があります。これには、関連する空間的、物理的、社会経済的条件、そして、その他の基本情報、概念、または、特性を含めることができます。調査領域および／またはフィールドワーク調査の場所の地図は空間要素を提示するのに不可欠です。

その研究がシラバスのどの学習範囲に関係しているかを述べます。コアテーマのトピックあるいは学習展開の欄、オプション・テーマ、HL発展項目からの内容と結びついては、2つ以上のトピック、もしくは、テーマを合わせても構いません。

規準Aを満たす、このセクションの分量の目安は300語（日本語の場合は600字）程度です。

B 調査のメソッド

情報を収集するために使用した（複数の）メソッドについて詳しく述べます。説明には、サンプリング技法、そして必要な場合はそれが行われた時間、場所、状況の説明を含めることも可能です。

フィールドワーク調査課題に対する調査を行うためには、メソッドは正当化されている必要があります、質的にも量的にも**充分**な直接的情報を収集できるものでなければなりません。

規準Bを満たす、このセクションの分量の目安は300語（日本語の場合は600字）程度です。

C 収集した情報の質と処理、および

D 分析レポート

生徒は、収集した情報を最適な手法を用いて処理し提示します。その手法は、収集した情報をもっとも効果的に示すものであり、適切に使われる必要があります。実際に使用する手法の詳細はフィールドワーク調査課題の性質によって異なりますが、統計的検定（信頼限界を含む）、グラフ、図表、地図、注釈付き写真と画像、マトリックスおよびフィールドスケッチなどを含む場合があります。

分析レポートでは、生徒はフィールドワーク調査課題に関連して収集した情報を解釈・説明して、フィールドワーク調査に対する理解と知識を示す必要があります。これには、収集した情報にみられる傾向と空間パターンの認識が含まれます。

適切な場合、なんらかの異例を特定し説明する試みが必要です。

地理的概念、収集した情報、そしてそれを処理・提示するために用いた手法について参照します。

資料の処理・提示および分析レポートはこのセクションに**統合**される必要があります。

規準CとDを満たす、このセクションの分量の目安は1350語（日本語の場合は2700字）程度です。

E 結論

フィールドワーク調査の結果を要約します。フィールドワーク調査課題に解答している明確で簡潔な文章を述べます。最初の予測、推測とは違ったという結果を結論で述べることもできます。

規準Eを満たす、このセクションの分量の目安は200語（日本語の場合は400字）程度です。

F 評価

直接的情報の収集メソッドを含め、自分が行った調査の方法論を見直します。そして、個人的な先入観、天候などの予期せぬ外的状況など、データの妥当性に影響を与えた要因を考慮します。

特定の、そして一貫性のある方法で、将来その研究が改善され広がる可能性を含めた提案ができると良いでしょう。

規準Fを満たす、このセクションの分量の目安は300語（日本語の場合は600字）程度です。

G 形式的要件

フィールドワークレポートは、整理・提示に関して以下の5つの要件を満たす必要があります。

- ・ レポートは2500語（日本語の場合は5000字）以内で作成されている。
- ・ 発表は明確でよく構成されている。
- ・ ページ番号が付けられている。
- ・ 基本情報に使われている参照は、標準規制に従っている。（参照の仕方についてのガイダンスは、間接的情報についてのセクションに記載されています。）
- ・ すべての図版資料には番号が付けられ、レポートの本体に統合されており、付録に挿入されていない。

一般的なアドバイス

地図

地図は生徒自身が描くことを強く推奨します。手書き、コンピューター上での作図どちらも可能で、研究との関連性がなければいけません。ダウンロードまたはコピーされた地図は、生徒自身が収集した情報に合わせる必要があります。オーバーレイ機能を使用することでそれは可能かもしれません。標準的な地図規則に従うものとします。

付録

非常に限られた数の付録が認められています。もし、付録が使われる場合は、データシートやアンケートの翻訳などの資料の事例のみを含むことが許されます。すべての資料、たとえば実施されたすべての調査とアンケートを提出する必要はありません。また、間接的情報は含めないでください。

レポートのとじ方

レポートのとじ方とモデレーションのためのレポートの提出の仕方は、IB資料『DP手順ハンドブック』を参照してください。

内部評価規準－S L / H L

フィールドワークには7つの内部評価規準があります。

規準A：	フィールドワーク調査課題および地理的概念	3点
規準B：	調査のメソッド	3点
規準C：	収集した情報の質と処理	5点
規準D：	分析レポート	10点
規準E：	結論	2点
規準F：	評価	3点
規準G：	形式的要件	4点
	合計	30点

この評価の目標は、S LとH Lに共通しており、フィールドワーク・研究課題に関する下記の能力における生徒の達成度を評価するためです。

- ・ 知識と理解（評価目標1）—規準Aおよび規準D
- ・ 応用と分析（評価目標2）—規準Aおよび規準D
- ・ 統合と評価（評価目標3）—規準D、規準E、および、規準F
- ・ 適切なスキルと手法（評価目標4）の選択、使用、応用—規準B、規準C、および、規準G

規準は、レポートの関連する部分に対して組織的に適応されることが必要です。

A フィールドワーク調査課題および地理的概念

この規準により、フィールドワークの焦点と地理的概念を評価し、また、フィールドワーク調査課題がシラバスの資料と関係しているかどうかを評価します。

点数	レベルの説明
0	成果物が以下のレベル説明の基準に達していない。
1	フィールドワーク調査課題が適切でない。または地理的概念、地図、シラバスとの関係についての情報に欠けている。
2	フィールドワーク調査課題は適切で、地理的概念の中に組み込まれており、シラバスに関連付けてある。地図が表示されている。
3	フィールドワーク調査課題は、地理的概念を詳しく正確に説明し、焦点がよく定まっており、シラバスに関連付けてある。地図が表示されている。

B 調査の（複数の）メソッド

この規準により、フィールドワーク調査課題を調査するために使われる（複数の）メソッドの記述、正当性、妥当性を評価します。

点数	レベルの説明
0	成果物が以下のレベル説明の基準に達していない。
1	情報収集のための（複数の）メソッドについて、簡単な説明のみ記述されており、その（複数の）メソッドは一般的にフィールドワーク調査課題の調査には適切ではない。
2	適切な記述はあるが、情報収集のための（複数の）メソッドとして、正当性には限りがある。使用された（複数の）メソッドは、フィールドワーク調査課題の調査には一般的に適切である。
3	情報収集のための（複数の）メソッドとして、適切な記述と正当性がある。使用された（複数の）メソッドは、フィールドワーク調査課題の調査にとっても適切である。

C 収集した情報の質と処理

この規準により、情報の質と規準Cの分析が適切であるかを評価します。また、情報の処理と表示に適切なテクニックが使われているかも評価します。

点数	レベルの説明
0	成果物が以下のレベル説明の基準に達していない。
1	限られた、または、不適切な情報が収集されており、収集した情報を処理し、表示しようとする試みがほとんど見受けられない。
2	関係のある情報が多少集められており、収集した情報を処理し、表示しようとする試みが多少見受けられる。
3	収集した情報はフィールドワーク調査課題に一般的に関連しており、多少の分析が可能である。収集した情報の処理と表示のテクニックに限りがある。
4	収集した情報はフィールドワーク調査課題に一般的に関連しており、質も量も十分であるため、分析が可能である。収集した情報の処理と表示のテクニックに限りがある。
5	収集した情報はフィールドワーク調査課題に直接的に関連しており、質も量も十分であるため、深い分析が可能である。最適なテクニックが収集した情報の処理と表示に効果的に使われている。

D 分析レポート

この規準により、フィールドワーク調査課題、地理的概念、収集した情報、図版資料を参照とした結果の分析の質を評価します。

点数	レベルの説明
0	成果物が以下のレベル説明の基準に達していない。
1～2	レポートには、非常に限られた知識と理解しか見受けられない。アプローチにはほとんど説明がなく、分析する試みがほとんど、または、全く見受けられない。
3～4	レポートには、多少の知識と理解が見受けられる。分析をしようとする試みはあるが、不完全、または、表面的である。フィールドワーク、地理的概念、収集した情報、そして、図版資料を、ほとんど、または、全く参照していない。
5～6	レポートには、適切なレベルの知識と理解が見受けられる。適切なレベルの分析がされている。フィールドワーク調査課題、地理的概念、収集した情報、図版資料を一般的に参照している。
7～8	レポートには、高いレベルの知識と理解が見受けられる。フィールドワーク調査課題、地理的概念、収集した情報、図版資料を参照にして、結果を上手に理由付け、詳しく分析している。結果に存在する例外の説明を試みている。
9～10	レポートには、かなり高いレベルの知識と理解が見受けられる。フィールドワーク調査課題、地理的概念、収集した情報、図版資料を高度に参照にして、結果を明確かつ上手に理由付け、詳しく分析している。結果に存在する異例を説明する試みが良い。

E 結論

この規準により、生徒がフィールドワーク調査の結果を要約する能力を評価します。

点数	レベルの説明
0	成果物が以下のレベル説明の基準に達していない。
1	フィールドワーク調査課題に対する結論を出す試みが見られるが、分析とは完全に一致していない。
2	フィールドワーク調査課題に対する結論は明確であり、分析と一致している。

F 評価

この規準により、生徒が自分の調査の方法論を論評する能力を評価します。

点数	レベルの説明
0	成果物が以下のレベル説明の基準に達していない。
1	フィールドワークの情報収集のいくつかのメソッドを評価するための試み、または、それを改善、拡張しようとする試みが見受けられる。
2	フィールドワークの情報収集のいくつかのメソッドは評価されている。または改善、拡張のための有効な提案がなされている。
3	フィールドワークの情報収集のいくつかのメソッドが明確に評価されている。または、有効な改善、拡張のための方法が提示されている。改善や拡張のための有効で、現実的な提案がなされている。

G 形式的要件

この規準は、生徒が記述レポートの書き方、整理の仕方、提示の仕方に求められる5つの形式的要件をどの程度満たしているかを評価します。

- ・ レポートは2500語（日本語の場合は5000字）以内で作成する。
- ・ 発表は明確でよく構成されている。
- ・ ページ番号が付けられている。
- ・ 基本情報に使われている参照は、標準規制に従っている。（参照の仕方についてのガイダンスは、間接的情報のセクションに記載されています。）
- ・ すべての図版資料には番号が付けられ、レポートの本体に統合されており、付録に挿入されていない。

点数	レベルの説明
0	成果物が2500語（日本語の場合は5000字）の制限を超えている。または、その他の形式的要件を全く満たさない。
1	成果物が2500語（日本語の場合は5000字）の制限内で、その他の形式的要件の1つを満たしている。
2	成果物が2500語（日本語の場合は5000字）の制限内で、その他の形式的要件の2つを満たしている。
3	成果物が2500語（日本語の場合は5000字）の制限内で、その他の形式的要件の3つを満たしている。
4	成果物が2500語（日本語の場合は5000字）の制限内で、その他の形式的要件の4つを満たしている。

指示用語の解説

指示用語

生徒は、試験問題で使用される次の重要な指示用語および表現に慣れておく必要があります。これらの用語は試験問題に頻出しますが、それ以外の用語を用いて、生徒に特定の方法で議論を展開するよう指示する場合があります。

以下の表に記載されている評価目標（AO）は、地理のシラバスを参照にしています。

分析しなさい Analyse	AO 2	本質的な要素または構造を明らかにするために分解しなさい。
注釈を入れなさい Annotate	AO 4	図表またはグラフに簡単な注意書きを足しなさい。
分類しなさい Classify	AO 2	種類やカテゴリにより、配置、または、順序付けしなさい。
比較しなさい Compare	AO 3	2つ（またはそれ以上）の事柄または状況の類似点および相違点について、常に双方（またはすべて）について言及しながら、説明しなさい。
比較・対比しなさい Compare and contrast	AO 3	2つ（またはそれ以上）の事柄または状況の類似点および相違点について、常に双方（またはすべて）について言及しながら、説明しなさい。
構築しなさい Construct	AO 4	図または論理形式で情報を表示しなさい。
対比しなさい Contrast	AO 3	2つ（またはそれ以上）の事柄または状況の相違点について、常に双方（またはすべて）について言及しながら、説明しなさい。
定義しなさい Define	AO 1	単語、フレーズ、概念、または、物理的な量で、正確な意味を述べなさい。
説明しなさい Describe	AO 1	詳細に記述しなさい。

決定しなさい Determine	AO 1	唯一の可能な答えを解答しなさい。
論じなさい Discuss	AO 3	様々な議論、要因、仮説を考慮し、バランスよく批評しなさい。意見または結論は、適切な根拠を挙げて、はっきりと述べなさい。
区別しなさい Distinguish	AO 2	2つ以上の概念または項目を明確に区別しなさい。
描きなさい Draw	AO 4	ラベル、正確な図表、グラフなどの手段を用い、鉛筆で表しなさい。直線を描くときには、定規（直線定規）を使いなさい。図表は縮尺に合わせて描きなさい。グラフは（適切な場合）、点を正確に描き、その点をつないで直線または曲線を描きなさい。
推定しなさい Estimate	AO 1	おおよその値を出しなさい。
評価しなさい Evaluate	AO 3	長所と短所を比較し、価値を定めなさい。
考察しなさい Examine	AO 3	論点の前提や相互関係が明らかになるように、議論または概念について考えなさい。
説明しなさい Explain	AO 2	理由または原因を含めて詳しく記述しなさい。
特定しなさい Identify	AO 1	多くの可能性の中から答えを出しなさい。
正当化しなさい Justify	AO 3	答えや結論を裏付ける理由と証拠を提供しなさい。
名称を付けなさい Label	AO 4	図表に名称を足しなさい。
簡単に述べなさい Outline	AO 1	簡単に記述しなさい。まとめなさい。
述べなさい State	AO 1	説明または計算なしで、特定の名前、価値、その他の答えを述べなさい。
提案しなさい Suggest	AO 2	解決、仮説、または、可能な答えを述べなさい。
どの程度 To what extent	AO 3	議論または概念の長所または短所を検討しなさい。意見および結論ははっきりと提示し、適切な証拠および論理的に正しい論拠をもたせなさい。